

III. フォーラム

1. 開会挨拶

丹波地域大学連携フォーラム実行委員会 会長 出町 慎

皆さん、こんにちは。ただいま紹介にあずかりました関西大学佐治スタジオ研究室の出町と申します。この会の会長を務めさせていただきます。

今日は、本当にすごく良い天気ですね、陽気というか。例年このフォーラムは12月ぐらいに開催するので、始まる頃には寒さで身が縮まり、非常に緊張感がある雰囲気になっています。今日はこのような陽気の中ということで和やかな感じでスタートできて良かったと思っています。

皆さん、今日はお忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。最初に私から少し大学連携フォーラムの持つ意味というか、思うことを述べさせていただきます、皆さんの発表に繋がりたいと思っています。

今回のテーマは「10年後の丹波地域を考えよう」です。今日は“丹波の森づくり30周年記念シンポジウム”と同時開催で、先ほど皆さんには向こうの会場（丹波の森づくり30周年記念シンポジウム会場）でパネルディスカッションをしていただきました。30年前にこの丹波の森ではこのように地域づくりを進めて行こうと提案され、その時からこのような市民活動がスタートしています。その延長に皆さんの活動があり、さらに今回のテーマである“10年後”ということで、次の10年、丹波の森づくりで言うと40年後、それを見据えて今何ができるのか、何をしていくべきなのかということを考えられたらと思っています。そのような中で、僕も大学を卒業してからずっとこの活動に関わってきましたが、大学生がどういった役割を果たすべきなのか、また、このフォーラム自体にどういった意味があるのか、などを考えるわけですが、今、皆さんがいろいろな地域で活動されていると、地域の課題である人口減少があったり、若い人がいなくなってということをよく聞くと、皆さん自身も感じていることがあると思います。ただ、僕が最近思うことは、人口が減少しているから地域はダメだということをよく言われているのですが、本当にそうなのかなということ。本当に人口が減ることが一番悪いかというとか、何かそうではないのではないかということ。どちらかという、人口が減るのは日本全国で減っていきますし、それを今さら嘆いたところでどうしようもないので、そういう中で本当に今考えなければいけないことは、人口が減っていくということもあるのですが、人口のバランスだと思います。構成のバランスが崩れていくということが非常に問題ではないかと僕は思っています。丹波地域であれば、皆さん御存じのように大学がありません。大学がないということは、半分ぐらいの学生は高校を卒業したら大学のあるところへ出て行きます。すると、18から20代半ばぐらいまでの世代がぼっかりと抜けてしまい、バランスが崩れてしまいます。それが丹波地域や農山村地域の抱えている課題だと思っています。今年の活動は10グループですので10地区で地域に関わっていますので、地域の人口バランスを良くしていくとか、考えていく上では皆さんの活動はすごく大きな意味を持っていますし、それに伴って地域の人たちも皆さんに関わることによって非常に力強く、心強く思っているのではないかと、と思っています。そういう意味で言うと、このフォーラム自体も皆さんの活動を応援する立場であり、皆さんが頑張っていることを応援しています。また、人口バランスのことを考えた時に皆さんのような若い世代の方々がもっともっと丹波地域で活動しやすいようにするためにはどうした

らいいかということ、皆さんもそうですが、我々自身も、大人たちも、周りの地域の人たちも、一緒になって考えるべきことかなと思っております。このフォーラムは皆さんの発表の場ですが、それだけではなく、それを支える実行委員もそうですし、地域の皆さんもそうですが、皆さんと一緒にこれからどうやって丹波地域で若い皆さんが活躍していけるような環境を作っていくのかということを考える場にしたいと思っております。

どうぞ皆さん、日ごろの活動の成果を、思いをしっかりと発表していただければ、ぶつけていただければ、と思っております。何も上手に発表できなくてもいいので、時には課題を我々に突きつけるようなことがあってもいいと思います。むしろその方が本来の意味としてはいいと思います。今、考えるべきこと、やっていることを全て出し切っていただければ非常にうれしいです。

最後になりましたが、学生の活動を支えてくださっています地域の皆さんにおかれましても、お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。日頃、学生の活動を温かく、時には厳しくご指導していただいているかと思っております。今日は学生の発表を聴きながら、これから10年先のことを皆さんと一緒に考えていくことができると思っておりますので、どうぞ最後までお付き合いいただければと思います。

簡単ではございますが、私からの挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございました。

2. コーディネーター・司会者挨拶

コーディネーター 関西学院大学総合政策学部 准教授 清水 陽子

今日は皆さんお疲れさまです。今、御紹介にあずかりました関西学院大学の清水と申します。

今日は本当に皆さんのこれまでの活動のご報告ということで、会長からもありましたとおり、何も格好いいこと言おうとか、いいこと言わなければというよりは本当に皆さんが今、取り組んでいる内容、もしくは何か抱えている課題があればそれをぜひ共有できたらと思っております。皆様の発表を楽しみにしています。よろしくお願いいたします。

司 会 関西学院大学大学院総合政策研究科 青木 崇

皆さんよろしくお願いいたします。関西学院大学博士後期課程の青木です。

今から発表に入っていきますが、ざっと見る感じ、顔が硬いですね。司会進行は私がしますが、私自身も学生なので、余り気兼ねせずに、一番の目的は学生同士の意見交換だと思いますので、楽に自分たちらしくやってもらったらいいかと思います。

皆さんのところに各団体に最終的に渡すアンケート用紙がありますが、それとは別に最後にグループ討議あります。その時に向けて、ほかの方の発表の中でここがまだ課題になるのではないかとか、あるいは、ここに自分たちの活動をコラボできなかったとしてもチャンスがあるのではないかとかがころころ転がっていると思います。それはぜひ自分たちのほかのメモ用紙かどこかに残して行ってほしいと思います。

3. 学生からの地域貢献活動報告

(1) AGLOC

皆さん、こんにちは。これから AGLOC の活動報告をさせていただきます。

本日の目次は以下ようになっております。初めに「AGLOC とは」を深く説明して、その後活動内容の発表、これまでの活動を通じて感じたこと、そして、活動のアウトプット内容、最後に今後の活動についてお話しさせていただきます。

初めに、「AGLOC とは」ですが、地域と世界を繋ぐというテーマをもとに篠山市の岡野地区で活動しております。この“AGLOC”というのは、Agricultural “農業の”、Global “世界的な”、Local “地域の”、Okano Dist. “岡野地区で”、Circle “輪”の頭文字から“AGLOC”が成り立っております。

現在は約 40 名が所属しており、留学生に地域の魅力を知ってもらい、また、地域の人々にも異国の文化を知ってもらうことによって地域を活性化させることが私たちの狙いとなっております。

次に、活動内容の発表について説明させていただきます。

僕たちが活動している内容としては、主に月 1 回または繁忙期は月 2 回の農業ボランティアと半年に 1 回の留学生引率というものをメインに行っております。さらにプラスして各プロジェクトの活動というものがあまして、各プロジェクトの例としては、ウエルカムキャンプといって 10 月に留学生を呼んでキャンプを行ったり、タイの留学生を中心とした動画を作成したり、小学生と交流を行ったり、合同マルシェを行ったり、六甲祭など様々あります。今日は一部を紹介させていただきます。

初めに、農業ボランティアです。農業ボランティアというのは農家さんのお仕事を手伝いながら、かつ、私たちも農業体験をさせていただきながら留学生と一緒にしております。先日も農業ボランティアに行ってきた。今日も岡野地区で留学生 2 人と日本人 7 人が活動しています。

次に留学生引率について説明させていただきます。留学生引率というのは半年に 1 回行われる引率旅行のことで、神戸大学が主催しており日本文化見学旅行という名前で約 40 名の留学生が一度に篠山に訪れてきます。そこで、自由行動があるのですが、これが実際の写真で、お酒が好きな留学生を英語で案内してあげて、お酒を買ってあげたり、この味は何だろうとかいうのを通訳してあげたりしています。今 11 月なので、11 月 29 日にまた留学生引率を行おうと思っています。私たちの思いとしては日本の古き良き文化を留学生にも知ってほしいということです。

次に、“Welcome Camp”について説明させていただきます。これは“Truss”という神戸大学の留学生支援サークルと共同で行っています。去年は台風の影響もあって留学生を余り呼べなかったのですが、今年は約 25 名の留学生と日本人 10 人を呼んで大規模な活動を行いました。日本に来た留学生がかなり多いのですが、日本の文化を知ってもらい、バーベキューをしたり、温泉に行ったり、線香花火という日本独特の文化を味わってもらったり、日本を存分に味わってほしいという思いで行いました。

そして、各プロジェクトから 1 つ紹介させていただきます。“動画 P”というのですが、今年の 1 月か 2 月に篠山動画大賞というものがあまして、タイからの留学生でブリームという方なのですが、英語とタイ語と日本語の訳をつけて動画を作製しました。その動画の内容としては、農業ボランティア中に撮った動画、例えば田舎の風景であったり、農業ボランティアの様子などを中心に作りました。そして、作製した動画を動画大賞に送ったのですが、見事「ささやま新発見賞」を受賞しました。

次に、これまでの活動を通じて感じたことを紹介させていただきます。私たちがいつも感じるこ

とは、篠山で農家さんと交流することで日頃の忙しさを忘れてリラックスできることであつたり、「ありがとう」と農家さんから言ってもらえることや、こちらも体験させていただいて「ありがとう」という気持ちになることが何よりの励みになっているのではないかとことです。

そして、昨年度に比較して各活動の人数の増加、去年の12月から始まり3回目となる留学生引率への参加、先日僕と宮川が参加した今年始めた宿泊体験の導入、そして動画大賞応募が挙げられます。

活動アウトプット方法に関しては“Facebook”で活動報告をアップしたり、また、“Twitter”で現状をアップしたりしています。これが“Facebook”の動画の一例ですが「ささやま新発見賞」の動画の一部なので再生できないのですが、こういうふうに字幕も付けながら篠山の動画をアップしております。留学生にも分かるように英語でも訳を付けたりしています。

最後に、「今後の活動について」です。課題としては農家さんの希望に対して特に繁忙期は人員が足りていないということです。先日も農業ボランティアに行きましたが、今がちょうど黒枝豆の繁忙期になり、ボランティアの人数が農家さんの希望に対して足りていないことがありました。その他にも、より多くの留学生を定期的に篠山に呼ぶ仕組みづくりの課題もあります。これは、大きなイベントである“Welcome Camp”であつたり、“留学生引率”などには留学生が来るのですが、定期的に行う農業ボランティアに大きなイベントほどの人数が来てもらえる仕組みづくりがまだできていないなと感じております。

AGLOCはできてからまだ3年しかたっていません。私たちが代表2代目ですので、次の代表は3代目になります。人数もだんだんと増えてきており、今、AGLOCは岡野地区と学生を結ぶ場所となっています。岡野地区と学生がより活動を発展させていきたいと思える場所になってもらえたらと思っております。また、活動の発展だけでなく、農家さんの名前、留学生の名前などをお互いがもっと覚えて、人と人の繋がりがもっと強くなってほしいなと思っております。

これからの3代目でどんどん次に発展させるために、私たち2代目はまだまだ活動を頑張らないといけないなと思っております。

以上で発表を終わります。御清聴ありがとうございました。

〔連携先の岡野ふるさと協議会からのコメント〕

ふるさとづくり協議会で事務局長をしています中井と申します。

先ほどの発表にもありましたが、農業ボランティアで昨日から泊まりがけでAGLOCの方々も岡野地区で活動しています。AGLOCの地区との関わりは農業ボランティアと小学生との交流がメインになると思います。ただ、昨年度十数件受入れがあつた農業ボランティアは、先ほどの活動報告にも出ていましたが、需要と供給がマッチングしていないとか、お年寄りの方は留学生がおられるとどうしても引いてしまうというところがあつたりして、ちょっと今年受入れ農家が少なくなつたりしています。ただ、だんだん人数が増えてきて一生懸命やってくれている姿を見てくれていると、これからまた受入れ農家も増えてくると思いますし、そういう若い人が一生懸命農業に取り組んでいただけるということで地域としても助かると思います。

また、現在夏休みだけ行っている小学生との交流は、小学校もウェルカムと聞いていますので、今後はもうちょっと機会を増やしていただければ地域ともっと繋がりが深くなるのではないかなと思っております。これからもよろしく願います。

〔会場からの質疑と応答〕

(Wake UP! 柏原)

先ほど、留学生を誘致する仕組みづくりが課題とおっしゃっていたのですけれども、今年の活動においてどのように留学生を誘致して、またその留学生はどれぐらいの期間、岡野地区で活動されていたのか気になりました。

(AGLOC)

“Facebook”に活動報告をアップしてあるのですが、“Facebook”のイベント機能を利用して、英語を使って「いつ農業ボランティアしますよ、ぜひ来てくださいねだったり、ウエルカムキャンプの一部にはなるのですが、“Facebook”とTrussという留学生支援サークルがあるので、その留学生とつながりというのは強いのでそこにシェアしてもらったりだったり、あとはキャンプに参加してくれた人にメール送って農業ボランティアどうかというのをここの取り組みとしてやっております。

(地域密着型サークル にしき恋)

質問ですが、月1回の農業ボランティアなどの活動で感覚でもいいのですが、平均的に1回の活動でどれぐらいの留学生の方がAGLOCを通して岡野地区に足を運ばれているのでしょうか？

(AGLOC)

今年は留学生を呼ぶというよりは農業ボランティアの人数を増やすというのに主眼を置いてやっているのですが、留学生自体の数は昨年と比べてちょっと減っているかなと思います。平均的には2人まではいかないと思うのですが、リピーターの中国やタイの留学生が結構多くて、今のところ10回農業ボランティアを行っているのですが、そのうちの4回ぐらい来てくれた留学生もいます。なので、定期的に呼ぶというのは1人という現状をどうにかしたいなという思いが込められております。

(地域密着型サークルにしき恋)

農業ボランティアに来てもらう人の数を増やすことに主眼を置いたことと、留学生が減ったということの相関関係については・・・？

(AGLOC)

それは留学生に主眼を置き過ぎて日本人に対しての告知が余りできてなかったことと、日本人と留学生というどうしても引いちゃう人も結構いたため、農業ボランティアに参加する日本人がそもそも少なかったのです。そこから留学生をやっ払いこうという形になっています。

(KGU×篠山まちおこしプロジェクト)

質問ですが、留学生に地域の魅力を知ってもらうことで交流をするということですが、例えば、僕たち日本人がアルゼンチンとかに行くと、アルゼンチンのブエノスアイレスとかでしたらそれなりに知名度があるのですが、全然、全く知らないような地方に出向くって、僕はそう簡単なことじゃないと思います。そういう地域の魅力は、どうやって留学生の方に最初に伝えていくんでしょうか？

(AGLOC)

地域の魅力は、例えば日本のお酒であったり、城下町という日本独特の文化であったり、さらに留学生が食べたことがないと思う黒豆などに重点を置いて“Facebook”で宣伝しています。

AGLOC 活動報告

2018/11/18 フォーラム発表
富田 誠之

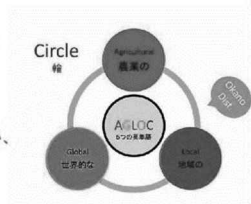
目次

- (0)AGLOCとは？
- (1)活動内容の発表
- (2)これまでの活動を通じて感じたこと
- (3)活動のアウトプット内容
- (4)今後の活動について

(0)AGLOCとは？

- ・ “地域と世界を繋ぐ”をテーマに、篠山市の岡野地区で活動
- ・ 約40名が所属

- ・ 留学生に地域の魅力を知ってもらい、また地域の人々にも異国の文化を知ってもらうことによって、地域を活性化させることが狙い



(1)活動内容の発表

- 主な活動として、
- ・月に1回(繁忙期は2回)の農業ボランティア
 - ・半年に1回の留学生引率

- +各プロジェクトの活動
(例)Welcome Camp P、動画P、小学生交流P、合同マルシェP、六甲祭Pなど

(1)活動内容の発表

- ・農業ボランティア(農業体験)

AGLOCの思い
農業の体験もさせていただきながら、農家さんのお仕事を手伝うことで、若い力で少しでも農家さんに貢献したい。



(1)活動内容の発表

- ・留学生引率

AGLOCの思い
城下町周辺を自分たちで案内することで、留学生に日本の古き良き文化に触れて楽しんでもらいたい



(1)活動内容の発表

- ・Welcome Camp(Trussと共同)

AGLOCの思い
日本に来たばかりの留学生が多い中で、多くの人に日本の文化、特に篠山の魅力を存分に味わってほしい



(1)活動内容の発表

- ・動画P

タイの留学生が中心となり、農業ボランティア中に撮った動画を大会に応募し、みごと「ささやま新発見賞」を受賞！



(2)これまでの活動を通じて感じたこと

- ・ 篠山で農家さんと交流することで、日頃の忙しさを忘れてリラックスできる
- ・ 「ありがとう」と言っていたのが何よりの励み
- ・ 昨年度と比較して、「各活動の人数の増加」、「留学生引率への参加」「宿泊体験の導入」、「動画大賞応募」が挙げられる

(3)活動のアウトプット方法

- ・ Facebookで活動報告をup
- ・ Twitterで現状をup



(4)今後の活動について

- 課題
 - ・ 農家さんの希望に対し、特に繁忙期は人員が足りていない
 - ・ より多くの留学生を定期的に篠山に呼ぶ仕組み作り
- 希望
 - ・ AGLOCが岡野地区と学生を結ぶ場所となってきたので、学生と岡野地区の人々の双方が、「より活動を発展させていきたい」と思える場所へ
(特に、活動だけでなく人と人とのつながりも強くなってほしい)

(2) Wake UP! 柏原

皆さん、こんにちは。関西学院大学から参りました、関西学院大学総合政策学部 Wake UP! 柏原です。よろしくお願いします。

Wake UP! 柏原ですが、今日このようなアウトラインでお話しさせていただきます。

この団体の事業目的は地域団体と協力したイベントの実施を通して、丹波市柏原町の活性化を図ることです。実際に1年間何をしてきたかということですが、3つのプロジェクトを通して活性化を図ってきました。まず1つ目が学内で企画展をやるというもの。2つ目が柏原の中心市街地をライトアップするというようなイベントを開催するということ。3つ目が観光の仕掛けづくりとしてリアル謎解きゲームを開催するという3つで進めてまいりました。

実際に何をやったかということ詳しくお話していきます。

まず、学内で行った企画展について説明させていただきます。これは関西学院大学の学生を対象にした、広報の機能を持ったような事業の1つになりまして、この連携事業が今年で10周年を迎えるということで、その記念事業としてこの企画展を行いました。

目的としましては、うち(関西学院大学)の大学生のみんなに柏原という町を知ってもらうことを一番に置いております。それから、私たちの活動を地元の三田の方、学生の方、教授の方にもっともっと知ってもらうための事業になります。企画展の内容は、(映写している発表資料の)文字が少し小さいので、配っているパンフレットに同じ内容が書いてありますので、ごゆっくりご覧ください。その企画展の内容としましては、ポスターであったり模型であったり、いろんなものを使って伝えるということをしたのですが、期間が1週間半ぐらいだったので、そのうちの4日間はトークセッションを行いました。あちら(地域団体の席)に座っていらっしゃる私たちと一緒に事業をさせていただいているまちづくり柏原の荻野社長もお呼びして、お昼休みに4回に渡ってトークセッションを行いました。内容は、様々なまちづくりのことで、私たちが柏原でどういう思いで活動しているかということをお学生に伝えるということをしました。来場者の方は1週間半を通して男女比は半々で、約50名の方に来ていただくことができました。三田キャンパスには2学部しかありませんので、来ていただける人はちょっと少なかったのですが、「とてもおもしろかった。」という感想がほとんどでございました。その他、参加者の声としまして、「どんな活動をしているのか具体的に知ることができた。」「柏原について知ることができた」と本来の目的は果たせましたので、この事業は大成功だったというふうに私は捉えています。

次に“かいばらいと”というライトアップの説明をさせていただきます。

“かいばらいと”は今年で3年目になります。2016年の授業で私たち学生が提案させていただいたもので、今年10月に行いました。毎年、まちづくり柏原の皆さんであったり、柏原自治協議会の皆さんであったり様々な方の支援を受けて今回も無事に成功させることができました。その様子をご覧いただきたいと思います。1年目の2016年のときから、大阪で活躍されている照明デザイナーの方に協力をしていただいています。今年も柏原町にある“木の根橋”という観光スポットのライトアップであったり、こちら(映写している発表資料)はその様子ですが、“木の根橋”の奥側に小さく見える鳥居なども今年はライトアップしていただきました。地域の方も昨年からはテーブルライトという橋の欄干の下についているものを購入していただいて、去年は町中の白壁だけだったのですが、今年はこういった形で橋の欄干にもきれいにつけてくださっています。

また、こちら(映写している発表資料)が織田の陣屋跡ですが、こちら先ほど紹介した照明デザイナーの方にライトアップしていただいて、今年はこちらの中で日本舞踊の能を披露していただ

くという新しい試みを試してみました。能が行われた時間はすごく人が集まって賑わっていました。また、私たち学生ボランティアはWake UP! 柏原のメンバー8人と、それ以外にも15名ほど僕らの友達を誘いまして、学生ボランティアとして手伝っていただきました。また、今年から新たな取り組みとして地域の方々にも運営に参加していただくということで、今年は4名だけでしたが、準備の段階から片付けまで協力いただきました。私たち学生のメインの企画はキャンドルナイトです。キャンドルを町なかに置かせていただいて、また今年はキャンドルにカラーテープを巻いて色づけしたり、どんどんバージョンアップしています。こちら（映写している発表資料）がキャンドルナイトの様子です。こちら（映写している発表資料）は最後に撮った集合写真で、皆さんすごく楽しい思い出になったのではないかなと思っています。

最後に、今年度から始まりましたプロジェクト“リアル謎解きゲーム”について説明させていただきます。そもそも“リアル謎解きゲーム”とはということなのですが、簡単に言いますと町中に隠されたヒントを見付けながら謎を解いていくようなものになります。我々としては柏原の中心市街地の非常にコンパクトな点、また、観光資源やストーリーが豊富という点に着目してこのプロジェクトを進めております。エリアとしては駅前の中心市街地を、織田信包の子孫として謎を解いていくというような設定で行っております。現在作成中になります。

ちょっと走りでも説明したのですが、最後に活動を振り返ってということで、学校で展示したり、ライトアップを行ったり、楽しみながら観光できるような仕掛けをつくったり等、我々としてはありのままの柏原をどのように見せていくかを考えてきました。しかし、特に“かいばらいと”とかになると、ありがたいことなのですが、ボランティアで来ていただいている方が、どうしても毎年同じ方になってしまい、広がりが見えないというところがあります。我々としてはこれからどんどん多くの住民の方に広がっていくように、地域に定着していくような活動にどんどんしていきたいと思っております。

今後の活動予定としては、12月に先ほど言った謎解きの設置を予定しておりまして、2月に柏原で最後の活動報告会を行う予定でございます。

以上が活動報告になります。ありがとうございました。

〔連携先の柏原まちづくり協議会からのコメント〕

皆さん、御苦労様でした。関西学院大学の学生が現地フィールドワークで柏原に来だして10年になります。それで、Wake UP! 柏原が2016年に2年生で現地フィールドワークに入ってくれました。それから2017年、18年と初めて3年間柏原で色々な活動をしていただきました。やはり学生が地域に入るということは1年で切れてしまいますので、このように3年間、そして今も来年もWake UP! 柏原は別のメンバーで続くということを知っておりますので、非常に企画とか事業の内容が濃くなっております。1年限りで切れるのではなくて、やはり1年間活動した中で課題を見つけてさらにそれを克服するというような活動ができて非常に受け入れ側としても喜んでおります。ただ、受け入れ側も意見を聞いたり協力する人が固定化されており、もう少し地元で色々な階層の人に参加していただけないとう課題を持っております。御苦労様でした。

〔会場からの質疑と応答〕

（さじっこ倶楽部）

全体的にすごくクオリティーの高い発表ですごいなと思いつつ聞いていました。“かいばらいと”

は結構規模が大きいなと思ったのですが、その始まりというか、Wake UP! 柏原さんがどういう形で関わってそういう大きな規模のイベントを立ち上げるに至ったのかということをご参考までに聞かせていただきたいです。

(Wake UP! 柏原)

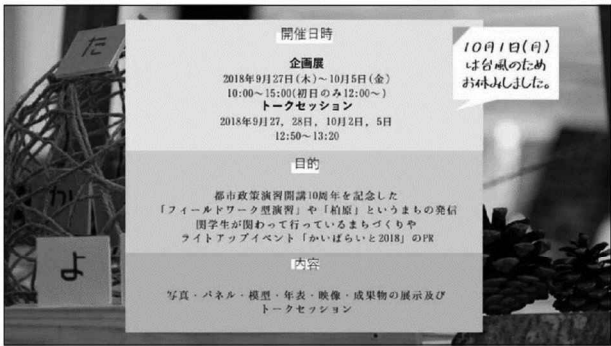
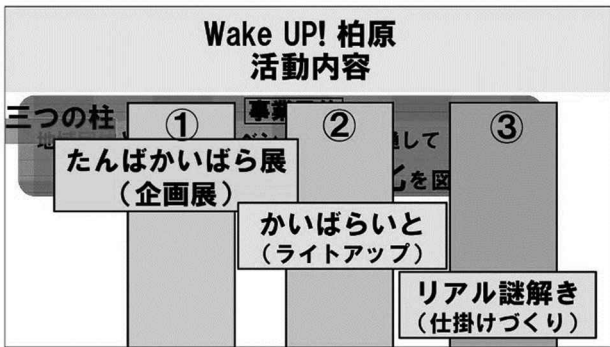
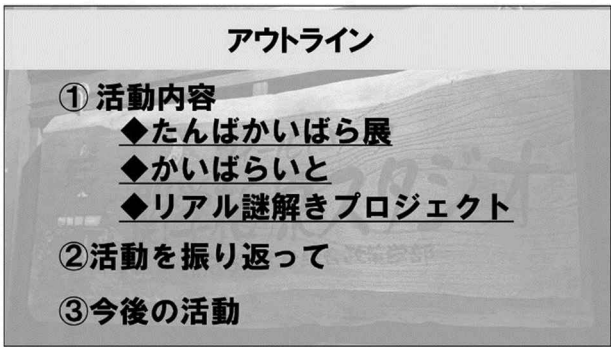
“かいばらいと”のそもそもの始まりは2016年にWake UP! 柏原ではなくて大学の授業で柏原の街並みを見たときに、この街並みを夜にライトアップしたらきれいじゃないと提案したのがきっかけでした。Wake UP! 柏原に関わり始めたのはその次の年からで、授業に関わった学生が来年もやりたいということでWake UP! 柏原という団体を引き継いで、その事業として取り組み始めています。今年も継続して行っていて、来年以降も継続していけたらなと思っています。

(KGU×篠山まちおこしプロジェクト)

“かいばらいと”について、聞きたいことが2つあるのですが、年々やっぱり来ている人が増えていっているのかと、あと、大学の中とか地域での認知度をどうやって上げていっているのかがちょっとお聞きしたいです。

(Wake UP! 柏原)

人数に関してはさほど増加はしてないのかなと思っています。ただ、今年で3年目で4回目の開催になるので、どんどん地域の方に認知していただいて、楽しみにしていただいているかなと思っています。宣伝というか認知度の向上の方法ですが、残念ながら大学ではポスター配りなどはしていません。逆に、地域では、今年の新たな取組みとしてワークショップを夏に開催して、地域の方を呼んで一緒にキャンドルの並べ方などを考えたりしています。そのほかにも町中にポスター貼ってくださったり、有線放送で宣伝してくださったり、地域での活動もまちづくりの団体の方々と協力しながらやっています。あと、SNSもやっています。



02 柏原ってどんなまち？

そもそも柏原とはどこにあって、どのくらいの人が住んでいるの？
案内の何よりも目立つ青の糸状展示は観客の目を引く。
訪れた人はここで柏原とはどのようなまちであるかという基本情報をインプットし、次の展示へと向かう。

制作期間：1週間





03 柏原演習のあゆみ

さて、ではなぜ開学は柏原というまちで活動を始められたことになったのか？10年続いた原因とは？
活動を中心に歴史をひもとき、過去の履修者がどのようにして地域と関わってきたのかを年間報告書と一緒に展示しました。


制作期間：2週間




04 空から見る柏原の町

「柏原」というまちのスケールを体感してもらうために、過去の履修生が作った敷地模型を壁に一面を広く、柏原中心市街地を500分の1にしたスケール模型を展示しました。
駅からたんば黎明館や鏡田陣屋跡など主要観光施設までの道のりや距離を見て「思ったよりコンパクトに回れる」となどという感想が出ました。

制作期間：2週間






05 柏原のシンボル

柏原町のシンボルフリーといわれる大げやき、町の主要観光施設であるたんば黎明館、丹波市の入り口となるJR柏原駅の模型を500分の1の大きさで作りました。

制作期間：2週間



06 メディアと柏原

ライトアップイベント「かいばらいと」では、初めて行った2016年から毎年YouTubeに当日の様子を動画にしてみました。その動画を2016年と2017年、クリスマスの3本を連続再生でスクリーンに展示しました。
このほか、法學部が制作した移住者インタビューや過去の履修者が制作した柏原町を自転車道で巡る動画なども一挙公開しました。

制作期間：1か月





07 関学 制作物

都市政策演習を履修した先輩が作ったきた地図や情報誌、Tシャツなどを展示しました。
その他、「かいばらいと」の過去のポスターやチラシなども手に取っていただくことができました。

制作期間：



会場案内図

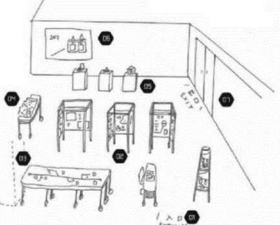
スタッフにもお気軽に
お声かけ下さい♪

TAMBA
KINOKUNIYA
EXHIBITION

たんばかいばら展
Sep-27-Oct-5
10:00-16:00
[7th 12:00-16:00]

Exhibition Contents of Exhibit Space


- キャンドルタワー
- 柏原ってどんなまち？
- 柏原演習のあゆみ
- 空から見る柏原の町
- 柏原のシンボル
- メディアと柏原
- 関学 制作物



TALK SESSION

第1回「学生がまちに入る、とは？」
9月27日(木) アカデミックcommons1F

「かいばらいと」「織田祭り」「夏祭り」「Delicious Holiday」など多くの事業やイベントで柏原に関わってきた野志さんと都市政策演習担当教員の清水陽子先生にお話を聞きました。




TALK SESSION



第2回「これまでの都市政策演習」
9月28日(金) アカデミックコモンズ1F

都市政策演習の1期生、4期生、8期生の学生の皆さんにお越しいただき、当時の演習や柏原の様子を振り返っていただきました。


TALK SESSION



第3回「近年の取り組み：かいばらいと」
10月2日(火) アカデミックコモンズ1F

柏原に関する活動の中で近年盛り上がりを見せているライトアップイベント「かいばらいと」。その発起人である8期生をお迎えして、かいばらいとについて、その始まりは、今後どうなってほしいのかを聞きました。

TALK SESSION



第4回「これまでとこれからの柏原」
10月5日(金) アカデミックコモンズ1F

最終回のこの日は、10年にわたって柏原演習を支えてくださった(株)まちづくり柏原の荻野社長と角野教授をお迎えして10年を振り返り、今後の展望についてお話をいただきました。

来場者アンケートの結果

調査期間▶ 9/27~10/5 「たんばかいばら展」開催期間中
 調査対象▶ 企画展に来場した学内・一般の方
 回答数 ▶ 51
 調査方法▶ アンケート用紙記入式


男女比

51%

49%

■ 男性
■ 女性

企画展の評価



THANK YOU!

とても面白かった

51%

面白かった

49%

企画展への参加理由

?

知人に関して 47.1%

都市政策演習の内容に興味があった 15.7%

トークセッションを聞いて 通りかかった 13.7%

7.8% 7.8% 7.8%

柏原に興味があって

参加者の声

どんな活動をしているのが具体的に知ることができた!

柏原について知らなかったことが多かったので歴史や古地図は興味深かった!

写真や動画がきれい!

写真をもっと載せたい!



柏原町の観光資源を生かした
ライトアップイベント
 開催 | 2018年10月7日(日)
 17:30~21:00
 場所 | 丹波市柏原町 中心市街地

台 台 台 台





リアル謎解きゲームとは？

- ◆観光地やテーマパーク、商店街などの店舗で遊べる、参加型のイベント
- ◆参加者は参加キット(謎の手がかり)をもとに、街中に隠された手がかりを見つけながら、最終的に「ミッション」クリアを目指す。
- ◆捜索の間に触れる、観光地などの魅力に触れ楽しみながら参加できることで集客と回遊性、コミュニケーション促進を生む。

リアル謎解きゲーム

- 目的**
 - 観光客のかいばらでのまち歩き促進
 - 地域資源を活かした観光強化
- 目標**
 - 謎解きゲームの設置・地域に定着
- 概要**
 - 謎解きしながら、まち歩きを楽しむことが出来る仕掛け
 - リアル謎解きゲームの設置

柏原で行う意味

- ◆コンパクトな町
- ◆観光資源・ストーリーが豊富

↓

★まち歩き促進

★新しいターゲット“若者”

リアル謎解きゲーム エリア

柏原町中心市街地

- 関学スタジオ
- 柏原駅
- 太鼓やぐら
- 古市場通り
- 木の根橋
- その他

リアル謎解きゲーム ストーリー

ある日、家の蔵から見つけた巻物には、

初代柏原藩主“織田信包”の名と

「柏原に隠された、織田信包が生涯愛したものは？」

という謎の間、

そして、柏原の地図が、、、

柏原のまちに隠された手掛かりをヒントに謎を解け。

リアル謎解きゲーム 作成中



活動を振り返って



今後の活動

12月 謎解き設置予定

2月 柏原活動報告会

ありがとうございました

今後も
Wake UP! 柏原
よろしくお願いします

(3) 地域密着型サークル にしき恋

地域密着型サークルにしき恋の説明をさせていただきたいと思います。

私たちの活動場所は兵庫県の篠山市西紀南地区です。活動理念は西紀南地区へ貢献することで、毎週末土曜日と日曜日に活動を行っております。

場所ですが、神戸大学がある最寄りの六甲駅から電車で1時間半ぐらいかかるところに丹波大山駅があり、そこから歩いて拠点まで行き、活動を行っております。

活動概要ですが、2012年に神戸大学の実践農学入門という授業で西紀南地区の農家さんにお世話になり、その関係を授業以降も続けたいということで2013年にサークルが設立されました。最初は7人のメンバーで始まったのですが、現在のメンバーは170人とOBとOGさんを含めたメンバーで活動を行っております。メンバーは神戸大学農学部の学生が中心ですが、神戸大学の全10学部の学生も所属しているほか、甲南女子大学さんや甲南大学さんの学生もメンバーとして在席しております。

僕たちは農業ボランティアを行っているのですが、最初は9軒だった農家さんが現在では30軒まで増えました。

活動内容は大きく3つに分かれています。農業ボランティアと黒枝豆の生産・販売、そしてプロジェクト活動です。順番に説明いたします。

まず、農業ボランティアですが、私たちは毎週末の土曜日と日曜日に活動を行っていて、基本的には年中行っています。7年間毎週末活動を続けていくことで農家さんも農業ボランティアが来ることを楽しみにしてくださったり、すごい生きがいにくださったり、農業のやる気になったりといった声をいただきます。農業ボランティア行うことで、私たちは農家さんに労働力だけではなくて活力といったものも提供できているかなと思います。僕たちも農業をすることで実践的な知識を得たり、さらには農業の楽しさというのを学ぶことができます。

次に、黒枝豆の生産と販売を行っています。地域の耕作放棄地をお借りして自分たちで畑を持って、種まきから収穫まで黒枝豆の生産を行い、さらに販売まで行っています。販売なのですが、神戸大学内や大阪や神戸のマルシェなど、今年は6箇所に店を出させていただきました。量としては600kgぐらいの黒枝豆を売ることができました。この活動もふだん農家さんがなかなか販売できないような場所を意識して販売しています。それによって新しい販路や知名度の向上を狙っています。

次に、プロジェクト活動の説明をさせていただきます。農業ボランティアを行う中で西紀南で活動を行っている学生が感じたことや思ったことを形にする場がプロジェクト活動です。その中でも今年始めた3つのプロジェクト活動を紹介させていただきます。

まず、今年始めたばかりの竹林を手入れする活動なのですが、地域には整備されていない竹林が多く存在します。その現状を知った中で僕たちは竹林を切って整備して、さらにはそれを有効活用することで持続的な竹の活用を目指しています。具体的な活動目標としては、窯があるので、その窯を使って竹を燃やして肥料にして畑に撒いてみたり、竹で流しそうめんを試してみたり、いろんな有効活用ができる方法があるので、それを模索しながらやっていきたいと思っています。

次に、どこの地域でもあるかもしれませんが、獣害対策をやっていききたいと思っています。これは柵を設置しているのを見学している写真ですが、まだ獣害の認知度は低いので、皆さんが思っている以上に都会の人とかは知らないなので、僕たちはジビエとして食べてもらうことから始めて、もっと獣害の認知度を上げていこうとしています。具体的な活動としましては、先週行われた大学の文化祭で鹿カツを販売しました。このときは500本ぐらい販売しました。すごく好評で、鹿はおい

しいということを知っていただけたと思います。今後は販売場所も増やしていきたいと思っています。

次に、無人駅プロジェクトなのですが、僕たちの活動拠点の最寄り駅である丹波大山駅が無人駅で、そこにもっとたくさん人が来ればいいなということでプロジェクトを始動させました。最初は駅の清掃や草抜きなどをしていたのですが、今後の展開としてはマルシェを開催して、駅に都会から人が来てもらえるような場づくりを計画しています。実際に来年度春にはマルシェを開催する予定なので、是非よかったら来てみてください。

このようにプロジェクト活動は自分たちが思ったことをすぐにやってみるということが大事だと思います。僕たちの強みというのは、その地域で活動していて思ったことをすぐに形にできることだと思っています。僕たちはもし竹林を見て、「これは荒れているな」とか「こんなことをやってみたいな」とか思ったら、すぐに情報を発信します。そうしたら、メンバーが集まってプロジェクトになります。こういう流れができていかなと思っています。それを支えてもらっているのは、西紀南のまちづくり協議会だと思っています。まちづくり協議会さんには僕たちの活動拠点である“みなみ・ほっと・サロン”を貸していただいております、農業ボランティアの受け入れ農家さんの調整もしてもらっています。このような西紀南まちづくり協議会さんのサポートがあって僕らは自由な環境でやりたいことができています。そして、農家さんとも継続的に活動を行うことができています。7年目になってメンバーも増えてきたのですが、これからいろんな活動がさらに始動していくと思います。しかし、僕たちは農業ボランティアという活動を軸にして、これからいろんな活動をさらに広げていきたいと思っております。

これで発表を終わります。御清聴ありがとうございました。

〔連携先の西紀南まちづくり協議会からのコメント〕

にしき恋さん御苦勞さまでございます。私は西紀南まちづくり協議会の事務局長しております北山と申します。

今、発表のあったように7年前から神戸大学の学生が地域密着型サークルという形で西紀南地区にいろんな貢献活動で来ていただいています。今では貢献ではなく、地域の状況を見て、学生が自由に率先して自分たちのやりたいことを出してくれています。だから、私たちまちづくり協議会は、学生にこんなことしてほしいとか、あんなことをほしいとかといったことをあえて言いません。地域の活性化というと、若い人のパワーが欲しいとか、若い人の知恵が欲しいとかいうことで交流などをやっておられるところがあります。しかし、地域から学生にどんどん期待を与えていくと、学生は真面目なので一生懸命期待に応えようと学生なりのパワーをその中に注ぎ込まれると思います。そうすると期待が学生のプレッシャーになったり、あるいは学生の意識が本分の学業から地域活動の方についてしまったりということをほかの交流されている方からお聞きしたりします。そういうこと考えると、私たち地域から学生にこんなことをしてほしいとか、活性化のためにはこんなことができないかということは一切言わずに、ただ、農家さんにボランティアで行きたいということで自由に来ていただき、学生が農家さんのところに行って、後は農家さんと会話して楽しかったということを学生が感じとってくれる、それがずっと続いている1つの要因だと思っています。だから、地域から学生や若い人いろんなことをお願いすることを一切しておりません。学生の思いだけで自由に地域で活動してもらい、地域の方はそれをサポートして見守るだけですが、それが逆に地域に密着しているように感じています。7名の学生から始まった活動が、140名までどんどん膨

れ上がった理由は、7年間付き合っている私も不思議で今でもわからないところです。それだけどんどん学生が来てくれるということがうれしいことで、どんどん継続していただき、地域に若い雰囲気を入れたいなと思っております。既にこのサークルの卒業生2名がこの地域に新規就農として農業を始めてくれています。さらに来年もちょっと手を挙げてくれている人がいるので、本当にうれしいことです。私たちが望むのではなく、学生みずからが農業をしたいということで地域に入ってくれるというこんなありがたいことはないなと思っております。

〔会場からの質疑と応答〕

（さじっこ倶楽部）

毎週末の農業ボランティアを7年間継続していることは本当にすごいなと思うのですが、それを続ける秘訣というか、難しいかもしれないですけど何かあればお願いします。

（地域密着型サークル にしき恋）

農家さんとお話しするのが楽しいので続けられていると思います。多分メンバーの大部分はそれが要因かと思います。また、この日に何人来ないといけないみたいなことを強制したりすることを一切せずに、所属しているメンバーが自分たちの都合のいいときに行けばいいみたいな、よく言えば縛られない気楽な雰囲気があるからこそ続けられるのかと思います。

（さじっこ倶楽部）

団体づくりがすごくうまいという感じですね。

（Wake UP！ 柏原）

3枚目のスライドのこのサークルが立ち上がったきっかけで、実践農学入門という授業があると書いてあるのですが、もしお知りであればこの授業の概要というかどんな取り組みをしていらっしゃるのか教えていただけますか？

（地域密着型サークルにしき恋）

この授業は篠山市の各地区に担当が1年ごとに割り振られていて、その地区で農学部の学生が授業1年間お世話になり農業を学ぶ授業なのですが、普通はその1年で終わってしまうんですけども、それからもかかわりは持ちたいということでそのサークルが生まれるきっかけになりました。



地域密着型サークル にしき恋



にしき 兵庫県篠山市西紀南地区

活動理念 西紀南地区への
貢献

にしきに恋して
みんなこい！

神戸大学

概要

- ・「実践農学入門」をきっかけに、
2013年7名のメンバーで設立
- ・現在の活動メンバー 170人+OB・OG
- ・神戸大学農学部を中心に全10学部にメンバーが所属
- ・甲南女子大学、甲南大学ほか他大学のメンバーも在籍
- ・受け入れ農家さん 設立当初9軒→現在30軒ほど

活動内容

- 農業
ボランティア
- 黒枝豆の
生産・販売
- プロジェクト
活動

農業ボランティア

今日はどの子が
来てくれるかな？
楽しみが増えた

北川 二郎 さん

学生が
農家さんに労働力+活力を提供
実践的な知識+楽しさを知る

学生 ← にしき恋 → 農家さん

その② 黒枝豆の生産・販売

関西6か所のマルシェ等
600kg販売

その③ プロジェクト活動 竹林編

荒れた竹林

その③
プロジェクト活動 ジビエ編



→ 獣害の認知度向上

その③
プロジェクト活動 無人駅編



→ 駅を人が集まる場へ

やってみたい!



学生

“西紀南に行けば、やりたい事ができる!”



にしき恋

何でもできる “自由”な環境



にしき恋



サポート



西紀南
まち協



ご清聴ありがとうございました

(4) Bamboo Sustainable Design Project

こんにちは。Bamboo Sustainable Design Project、竹のデザインプロジェクトについて発表させていただきます。よろしくお願いします。

このスライドの写真は、昨年度のバスプロジェクトで私たちと東雲高校の高校生・地域の人たちで協力して建設した福住のバス停です。

今年度のプロジェクトは、昨年度のバス停福住の改修に引き続いて行っており2年目になります。

プロジェクトの目的は2つです。1つ目は放置竹林の整備のきっかけをつくることです。写真のように、篠山市では整備されなかった竹林が居住エリアまで広がってきており、大きな問題となっています。この問題を解決するために、昨年度、こちらの写真のように東雲高校の生徒とともに竹を伐採しました。

2つ目の目的は伐採した竹を有効活用して、バス停や町並みのデザインを提案・作成することです。具体的にはこの図のような循環型持続的な活動を目指しています。今年度は、昨年度完成したバス停のメンテナンスに加えて、原山口でもバス停を提案し、さらに持続的な仕組みを実践していこうとしています。

今年度の活動報告の前に、昨年度の活動について紹介をしたいと思います。昨年度は、写真のように竹林伐採からデザイン調査、バス停の組み立てまで、東雲高校の学生や地域の方と協力して活動を行ってきました。また、完成したバス停はさまざまな形で地域以外の方にも周知していただきました。まず、神戸新聞や丹波新聞に掲載していただきました。さらに、研究活動として日本建築学会に発表したほか、東雲高校の生徒が農業クラブ大会でこの活動を発表して兵庫県大会で最優秀賞をいただきました。完成したバス停はこのようになっています。今年度は福住のバス停は東雲高校の学生にメンテナンスを行っていただいております。具体的にはこの看板のメンテナンスと、天井の改修、あとは側面にグリーンカーテンを設置していただいております。実際に東雲高校の生徒が授業内で主体的にメンテナンスについて話し合いを行ってしています。5月にはグリーンカーテンの設置をこのように行っていただいております、このグリーンカーテンは地域の人たちにも水やりをしていただいていると伺っております。

次に、今年度のプロジェクトについてです。原山口のバス停デザインを行っております。昨年度のデザインワークショップ、竹の伐採、加工を行ってしています。今年度は地域の人たちからの依頼もあったので、高校生ではなく地域の方が主体となったプロジェクトを進めております。これが改修後の原山口のバス停のイメージ図になります。構造部材が傷んでいたため、去年度は行わなかった構造部材の取りかえも行います。これがおとといの活動写真になります。実際、この地域の方々の協力のもと製材を行い、このようにバス停の改修を行ってしています。

続きまして、活動のアウトプットについてです。今年度はSNSを積極的に利用して、昨年度以上に情報の共有、発信を行っております。メンバーの情報共有としてはLINEと”Facebook”グループを用いて行っており、情報発信では”Instagram”や”YouTube”で写真や動画を用いて活動紹介を行っております。もしよろしければ、ぜひBSD. Projectと検索していただいで”Instagram”でこのアカウントをフォローしていただければ、僕たちの活動をよりわかっていただけるとと思います。よろしくお願いします。

今年度の活動についての振り返りです。今年度の活動では、地域の方々と何度も話し合いを行い、最終的なデザインを決定することができました。おとといから始まった改修作業も、地域の方々と協力して行っております。地域の方々を巻き込んだデザインワークショップを行えた点と、単なる

改修作業にとどまらず、地元の農業高校による継続的なメンテナンスの仕組みをつくれたこと、この2点で地域に貢献することができたと思います。一方で、地域の方からはもっと大々的に竹林整備を行ってほしい、来年度も違うバス停デザインを提案してほしいというお言葉をいただいております。バス停の改修に使う竹の本数は年間60本程度で、私たちだけで竹の間伐をするのにも限界があります。いつまで継続して地域の活動ができるかということが、非常に課題になっております。これは昨日の写真です。実際に地域の方がこのバス停の完成に加わったり、その過程にアドバイスをしながら関わってくださっていることが、大変うれしいです。僕たちも活動に取り組んでいる状態ですので、今後も地域の方々と協力して活動を続けていけるような仕組みづくりが、もっとできればいいなと思っております。

また、私たちのプロジェクトは、今年度で2年目になります。去年度は地域の高校生と協力してバス停の改修プロジェクトをすることで、高校生が主体となって持続できるプロジェクトを実践しました。今年度は地域の方が主体となる地域活動を定着させたいと考えており、ワークショップを企画して活動を進めております。

今後、活動を続けていくための課題としては以下のように2点あります。まず地域の人たちとのスケジュール調整という点です。今は地域おこし協力隊の方に入っただいて、地域の方と学生の連携というものを図っていただいておりますが、もし地域おこし協力隊の方がいなくなってしまうたら、この活動はどのようにして続けていけばいいのかということに心配しております。2点目は継続的に活動をしていくために、先ほど、にしき恋さんの発表でもありましたが、もっと無理なく楽しく活動を続けていけるような秘訣を探している状態であります。

最終的な目標としては、2020年に伝建地区の全国サミットが行われる福住に対して、バス停の待合所だけではなく、町並み全体に対してデザインの提案をしていければいいなと考えております。

こちらが今後の活動になります。竹の伐採、竹の加工、竹のベンチ製作、竹の壁製作、あと看板製作です。さまざまな活動がありますが、もし興味があり参加希望の方はぜひぜひメンバーまでお声がけいただければうれしいです。以上です。ありがとうございます。

〔連携先の福住地区まちづくり協議会からのコメント〕

いつもお世話になっております。この活動のすごくいいところは、昨年度、竹のバス停が大変地域で好評でしたので、今年は地域のほうから、今度うちの地区のバス停を一緒に改修してほしいとお声が上がったというのが非常にうれしかった1点目です。ただし、地域の方々も大学の活動となると大学生がやってくれるのだろうなという期待があったり、大学生自分たちは提案するだけでやるのは地域の人だろう、というようなお互いの兼ね合いが難しいと思います。しかしこの活動に関しては、地域も大学生側もみんな当事者意識を持っており、提案もするし作業もします。また、地域の人も大学生を受け入れるだけではなく、自分たちもアイデアを出して一緒に考え、プロジェクトチームとして活動してくださる方々が今年は集まっているというのが、非常にうれしいと思っております。

課題は、これをどう継続させていくかということで、大人数でできる作業ではないので、たくさんの方に来てもらって観光収入があるとか、そういう効果はまだ見込める段階ではないので、どうやってこの活動を無理なく、地域も学生もお互いにやりたいことと、できることの兼ね合い見ながら継続していけるかということが、今後の課題と思って活動をしております。

〔会場からの質疑と応答〕

(Wake UP! 柏原)

実はこの事業の選考会の後に福住のバス停が気になってそのまま行ったのですが、本当にきれいなバス停でとても感銘を受けたのを覚えています。多くの団体が目に見えない提供する形が多いと思うのですが、こういった形に残る活動もとても素晴らしいなと思いました。

1つ質問なのですが、高校生とワークショップをされたり、住民の方とワークショップをされているということで、地域おこし協力隊というワードもあったのですが、どのように高校生や地域の方にお声かけされているのかをお聞かせ願いたいです。

(Bamboo Sustainable Design Project)

高校生に関しては、もともとこのプロジェクトが始まったきっかけが、高校生が私たちの研究室が提案していた竹の農業ハウスをつくってくれたことがきっかけとなりまして、高校生のほうから竹のバス停を作りたいなという提案がありました。それで、私たちに声がかかりました。地域調整や授業の進方は、地域おこし協力隊の方に調整していただいて、去年は1年間プロジェクトを続けました。今年に関しては、先ほどもちょっと紹介したのですが、本当にもうがつつり地域おこし協力隊の方に地域の人に連絡をしてもらい、この日だったらワークショップができる日を決めていただいて、それに合わせて私たちがワークショップの準備をして参加しました。どうしても地域の方に入ってもらわないとなかなか進めないプロジェクトなので、まずは地域の方のスケジュールを優先し日程を決め、その後で私たちが準備をしてワークショップのコンテンツを持っていくというふうに進めています。

(司会者)

高校生がメンテナンスをするというシステムを作り、それがうまいこといったというお話だったと思うんですけども、高校生も3年経てば世代交代が始まりますし、少子化で学校がどこまで継続するのかという問題があると思うのですが、そこをどうにか攻略できるようなシステムというのは組まれているのですか。

(Bamboo Sustainable Design Project)

まずは去年やっていたプロジェクトというのも、高校3年生の授業の中で取り入れてもらったプロジェクトだったので、基本的にはその授業の中で続けていけるようにということで進めていました。今年度は新しいバス停を高校生と一緒につくっていないのですが、その高校生自身が自分たちがよく使うバス停を選んでいきます。なぜなら高校生たちが毎日使っているので、自分たちがそれにかかわりたいという意思がとても強いのです。去年つくってくれた高校3年生はもう卒業してしまいましたが、今年の高校3年生の授業でも引き続きメンテナンスをしてもらっています。もっとここをこうしたいという意見を強く持っているようです。それに対して私たちが何も言わなくても、とりあえずグリーンカーテンを作ろうという考えのもとで、私たちが提案する前の4月か5月ぐらいにこのグリーンカーテンを自分たちで設置してもらっています。それくらい愛着を持ってくれているので、基本的には授業の中で進めてもらいながら、有志の子たちでも続けていけるようにしたいなと思っています。私たち大学生もなかなか行くことができないので、その辺はちょっと地域おこし協力隊の方にも手伝っていただきながら、高校の先生ともこういうふうにしていったらいいんじゃないかと相談しながら進めています。



1. 団体紹介

Bamboo Sustainable Design Project
竹のデザイン・プロジェクト 2

【目的】
 福住の地域団体・地元高校生と連携し、
 ・放置竹林の整備のきっかけづくり
 ・間伐竹の活用
 (バス停・まちなみデザイン)
 を実施すること。

【活動内容】

- 竹林整備
- 間伐竹の活用
 - バス停デザインワークショップ
 - 竹の加工
 - 竹のバス停建設
- 憩いの場として定着
- バス停のメンテナンス

1. 団体紹介: 昨年度の活動

Bamboo Sustainable Design Project
竹のデザイン・プロジェクト 3

昨年度の活動

- 竹伐採
- 森の風土で竹の加工
- Heritage ジマナジャーと調査
- 竹のバス停製作

1. 団体紹介: 昨年度の活動

Bamboo Sustainable Design Project
竹のデザイン・プロジェクト 4

- 神戸新聞、丹波新聞に掲載
- 日本建築学会全国大会で発表 (大学研究活動)
- 農業クラブ大会 (兵庫県) で優秀賞受賞 (東雲高校)

2. 10月までの活動内容: 東雲高校との連携

Bamboo Sustainable Design Project
竹のデザイン・プロジェクト 5

- グリーンカーテンの設置
- 天井の改修
- 看板のメンテナンス
- 竹のベンチの設置

2. 10月までの活動内容: 東雲高校との連携

Bamboo Sustainable Design Project
竹のデザイン・プロジェクト 6

- 授業内でメンテナンスについて話し合い
- 高校生でグリーンカーテン設置
- 授業内でメンテナンスについて話し合い
- 高校生でグリーンカーテン設置

2. 10月までの活動内容: 地域との連携

Bamboo Sustainable Design Project
竹のデザイン・プロジェクト 7

- バス停待合所についてヒアリング
- デザイン・ワークショップ
- 市役所に対して提案
- 施工計画について話し合い

2. 10月までの活動内容: 地域との連携

Bamboo Sustainable Design Project
竹のデザイン・プロジェクト 8

- 土壌の凹凸切り
- 新しい照明機
- 新竹の処理
- 子供が遊べる竹の象徴
- 丸竹の壁と電線
- 小上がり風の竹のベンチ
- 床の打ち直し
- 段材板の外壁
- 自転車を置き場

2. 10月までの活動内容：地域との連携 Bamboo Sustainable Design Project
竹のデザイン・プロジェクト 8



3. 活動のアウトプット Bamboo Sustainable Design Project
竹のデザイン・プロジェクト10

メンバー内の連絡・情報共有

- ・LINE
- ・Facebook

Facebookはオープンにしているので、メンバー以外の誰でも見ることができる状態！

情報発信

- ・Instagram (アカウント名: bsd.project)
- ・YouTube (アカウント名: Bamboo Bus Stop Project)

4. これまでの活動を通じて感じたこと Bamboo Sustainable Design Project
竹のデザイン・プロジェクト11

【活動の成果】

- ・地域の意見を取り入れたバス待合所のデザイン
- ・放置竹林の竹伐採 (予定)

デザイン決定から実施計画まで一緒に話し合った！
改修作業も一緒に行う予定

【地域に貢献できたと思うこと】

- ・地域の人を巻き込んだデザイン・ワークショップ
- ・地元の農業高校による継続的メンテナンスの仕組みづくり

【地域に期待されていると感じること】

- ・竹林整備
- ・継続的なバス待合所のデザイン提案と改修

来年も違うバス待合所を一緒にデザインしたい

地域の人たちが、本当に期待することってなんだろうか？

4. これまでの活動を通じて感じたこと Bamboo Sustainable Design Project
竹のデザイン・プロジェクト12



4. これまでの活動を通じて感じたこと Bamboo Sustainable Design Project
竹のデザイン・プロジェクト13

【昨年度の活動と今年の活動の比較】

- ・地域の人を巻き込んだデザイン・ワークショップ

昨年度は高校生を対象としたワークショップが多かった
今年度は地域を対象としたワークショップを実施している

⇒ 地元高校生と地域の人たちが主体となる地域活動を定着させたい

【苦労していること】 = 【活動を続けていくための課題】

- ・地域の人たちとのスケジュールの調整
 - ⇒ 現状：地域おこし協力隊の方に任せている
 - ⇒ 地域おこし協力隊の方がいなくなったら？
- ・継続的な活動にしていくための仕組みづくり
 - ⇒ 大学としての関わり方？
 - ⇒ 何年先の見通しを立てて活動を続けていくか？

地域の人たちも、自分たち大学生も、無理なく楽しく、活動を続けていく秘訣？

5. 今後の活動について Bamboo Sustainable Design Project
竹のデザイン・プロジェクト12



5. 今後の活動について Bamboo Sustainable Design Project
竹のデザイン・プロジェクト15

【今後の活動】

下記の活動を地域の人たちとワークショップしながら進めていきます！

- ・竹の伐採
- ・竹の加工
- ・竹のベンチ製作
- ・竹の壁製作
- ・看板製作 (焼きベン)
- ・焼杉板の製作 (杉板を焼きます！)
- ・土壁づくり (竹小舞づくり) etc.

興味のある方、参加希望の方はメンバーまでお声掛けください！



(5) ミライの輪

ミライの輪です。よろしくお願ひします。私たちがやっているのは丹波市山南町の農作物認知度向上プロジェクトです。

まず活動地域と団体紹介をさせていただきます。活動地域は、丹波市山南町の久下地区で丹波市の南の方にあります。私たちが所属しているミライの輪というのは、3年前ぐらいに神戸親和女子大学や神戸学院大学、甲南女子大学の学生がメンバーとなり、兵庫県内の地域で地域貢献活動を行う団体として結成されました。現在は、神戸親和女子大学の学生のみで活動を進めています。協力していただいている久下自治振興会さんは、一体感あふれるまちづくりを目指して設立された地元住民のグループになります。地域内でウォークフェスタや元旦マラソンなど、ほかにも小学生向けの科学教室などのイベントを開催して、地域を盛り上げておられます。

今年度の活動は、月に1回学内でミーティングをするほか、7月に新メンバーを含めて久下自治振興会の方と今後の活動をどうしていくか話し合いを行いました。9月には農業体験企画の話し合いや現地調査を行い、10月には実際に学生のみで農業体験をしたり、今後の活動をどうしていくかについて、さらに打ち合わせをしました。あと今回はパワーポイントには入れてないのですが、11月の大学祭で野菜販売も行いました。

振興会の方には、昨年引き続き野菜のウェブ販売を進めていき、さらに子供のいる家庭を対象にした農業体験ツアーを企画したいという話し合いをさせていただきました。それを踏まえて、メンバー間では、どういった企画にするかということをお話し合っています。また、野菜の販売については、サイズや量を決めたり、また協力してくださる農家さんをどう集めていくかなどの課題が出ました。9月には農業体験の企画案と、野菜の個配の提案を出しに行かせてもらいました。家族連れを対象にした農業体験ツアーは、ツアーを通して生産者の顔や生産地を直接見ることができ、久下の野菜を知っていただくことで、久下の野菜の個配の顧客の獲得につながるのではないかと思います。本大学内にある子育て支援センターに来ていらっしゃる家族に協力していただいで、小規模でもいいので参加者を募集していけそうだという話もさせていただきました。半年から1年の予定を組んで、二、三カ月に一度訪問していただくことで、収穫だけではなく野菜がどう育っていくかなどの過程も体験していただきたいという内容も提案させていただきました。急に体験ツアーを組むのは大変なので、実験として10月に本大学の学生だけで参加させていただきました。この学生だけで行った体験ツアー内容は、黒枝豆の収穫や摘み取り、枝切りなどの農業体験や、丹波の食材のお米や枝豆などを使った昼食をとらせていただきました。また、大学祭の打ち合わせやお米や枝豆などの袋詰めもさせていただきました。実際に体験することによって、どういった環境で育てられているか知ることができ、安心して野菜を購入することができるのだろうということを身をもって感じることができました。

これまでの地域の方とのミーティングは、家族連れを対象にした農業体験ツアーの提案や、野菜のウェブ販売の提案をさせていただきました。そのために学内では、農業体験ツアーの企画を立案、また学祭での野菜販売の打ち合わせを重ねていきました。

話はそれてしまうのですが、この11月の大学祭で野菜販売を行ったのですが、売る野菜がぎりぎりまで決まらないという問題が起きたり、久下自治振興会さんとの連絡がうまくいかなかったことがありましたので、これを今後の課題として解決していきたいなと思っております。

昨年度までの活動と比較なのですが、地域交流として久下フェスタを行い、親和女子大学やほかの大学さんとの意見の比較を行いました。また、小学生との交流も行い、お正月に久下小学校の児

童と一緒にお餅をついたり、またミライの輪の活動で育てた小豆を使ったぜんざいなどもつくりました。また、自宅で黒枝豆を栽培しているお宅へお邪魔し、さやとり体験を行いました。10月下旬に収穫されたこともあって黒枝豆はとてもおいしかったのですが、それを実際にプロジェクトメンバーの家族や知り合いなどに送るなどのテスト配送も同時に行いました。初回ということで、その限られた中でしか配送しなかったのですが、今まで親戚内に分けていただけの黒豆に對価が発生したことは大きな一歩になったのではと考えています。ただし、生産者の方の価格設定が低く、野菜の安全性と質を考えるともっと価格を上げてはいいのではという話にもなりました。

昨年度までの活動の比較を通して、今までは地域の方との交流やそこで見つけた問題を解決するための活動を行っていきました。本年度はそれを軌道に乗せて、活動として安定させていくことを目標に活動を行っていきました。課題としては久下の野菜をもっと知ってほしい。定期的な販売に協力してくださる農家さんを集めていくことを考えています。

今後の活動としては、野菜の販売を第一として、そのためにまず久下がどういった場所であるか、ここで育つ野菜をたくさんの人に知ってもらうため、小規模の農業体験ツアーをたくさん企画していき、参加してもらうことによって顧客の増加に繋がると考えています。この企画には地域の方々の信頼と連携が必要不可欠であると思っているので、信頼を失わないため2、3ヵ月に一度は訪問して、定期的な交流を続けていくのが大事だと思っています。終わります。ありがとうございます。

〔会場からの質疑と応答〕

（地域密着型サークル にしき恋）

この発表を聞いていて、今どの活動をメインで行っているのかなというのが、ちょっと僕にはわからなかったのですが・・・。

（ミライの輪）

メインは野菜を売ることです。しかし、久下の野菜を売るなかでどうしても「久下地区ってどこだろう」と皆さんに思われるので、久下地区の野菜がこういうもので、どういうものを育てていて、安全性が高いなどということを知ってもらうために、農業体験ツアーを企画したり、学祭などで久下の野菜を販売したり、久下の野菜のファンを作ることを目的に野菜を売るための活動も一緒に進めています。なので、野菜の販売があくまでメインです。

（地域密着型サークルにしき恋）

地域と町というか、そこをつなぐ役目を担いたいと？

（ミライの輪）

そういうことになります。

（KGU×篠山まちおこしプロジェクト）

質問というか参考にぜひ聞かせさせていただきたいのですが、久下の野菜をもっと広めたいということで、まずは知ってもらうことが大事だとおっしゃっていたので、それは久下野菜のブランドを上げていくということだと思のですが、もしお二人方が今考えているそのブランド力を上げられる方法や意見をぜひ聞かせさせていただければと思います。

（ミライの輪）

私が考えているのは、やはりみんなに食べてほしいなということが一番です。野菜の良さというものは、どれだけ言葉で伝えてもやはり伝わらないかなと思うので、食べてもらうことが第一の条

件になります。それで、学祭であったり、ほかのところで販売をしていく中で久下の野菜の知ってもらうことを私は考えています。

(ミライの輪)

私は、まずは身近な人たちから知ってもらって、さらにその人の身近な人においしかったよと伝えてもらうことで、知ってもらえたらいいかなと私は思っています。

(Wake UP! 柏原)

大学祭で野菜を売ったということなのですが、どれぐらい売り上げたのか、あと野菜を売るときに何か工夫したことを教えてください。

(ミライの輪)

売り上げは、2日間で9万円ぐらいでした。また、1日目だけなのですが、久下の野菜を作っていたらっしゃる方と一緒に販売させていただき、その野菜がどういったものかということ詳しく知ってらっしゃるので、その方たちのおかげでたくさん売れたと思います。

丹波市山南町 農作物認知度向上 プロジェクト

発表者:ミライの輪(神戸親和女子大学)

活動地域・団体紹介



活動地域

丹波市山南町久下地区(兵庫県中部に位置)

ミライの輪

神戸親和女子大学、神戸学院大学、甲南女子大学の学生がメンバー。主に兵庫県内の地域で、地域貢献活動を行う団体。

久下自治振興会

“一体感あふれるまちづくり”を目指して設立された地元住民グループ

ウォークフェスタ・元日マラソンや、小学生向けの科学教室など、室内外で盛んにイベントを開催、地域を盛り上げている。

今年度の活動(10月31日現在)

月に1回 学内でミーティング

7月 新メンバーを含め、久下自治振興会の方との今後の活動の話し合い

9月 農業体験企画の話し合い、現地調査

10月 農業体験、今後の活動の打ち合わせ

11月 大学祭での野菜販売



7月

今年度の活動をどうしていくか、久下自治振興会の方と意見を交わす

→農業体験をしたい
野菜のweb販売の話を進めていきたい

→農業体験、web販売の企画を学内でのミーティングで企画立案をしていく



9月

農業体験の内容と、野菜の個別配送の提案

→農業体験を子どもを持つ親を対象にすることで、久下の野菜を知って貰って、野菜のweb販売のお客様を確保する



10月

農業体験の実験

大学祭(11月3日、4日)での野菜販売の打ち合わせ



これまでのミーティング内容

◎地域にて

家族連れを対象にした、農業体験ツアーの提案
野菜のweb販売の提案

◎学内にて

農業体験ツアーの企画立案
学祭での野菜販売の打ち合わせ



昨年度までの活動との比較

昨年度までの活動①
久下フェスタ



昨年度までの活動との比較

昨年度までの活動②
小学校の生徒との交流

かるた作り
餅つき、ぜんざい作り



昨年度までの活動との比較

昨年度までの活動③
黒枝豆の収穫、テスト発送

初回の初回価格設定、配送方法 など
★鞘のみ 600~800g 1000円
(510円の送料込み)

★ゆうパック
★初回販売先はプロジェクトメンバーの家族や知り合い



昨年度までの活動との比較

昨年度まで
久下フェスタ
小学生との交流
黒枝豆の収穫、テスト発送

今年度
・野菜のweb販売の提案
・農業体験ツアーの企画立案

地域の方々との交流の中で
見つけた課題を解決する活動

課題解決を軌道に乗せていく
活動

今後の活動

野菜の販売を軌道に乗せる
農業体験ツアーを通して、久下の野菜の
認知度を上げていく
地域の方との定期的な交流



(6) KGU×篠山まちおこしプロジェクト

KGU×篠山まちおこしプロジェクトの発表を始めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

本日は、私たちのプロジェクトの活動報告を発表いたします。まず、このプロジェクトでは、篠山市を知っていますかという全国アンケートに対し、「知らない」という回答が県外だけでなく、県内からも「詳しくはわからない」というデータがあったことから、以前よりゼミ活動でお世話になっていた篠山城下町、中でも春日神社秋祭礼の活動を中心に、その魅力を地域内外に発信するという大きなテーマを掲げて活動しています。

そのために4つのキーワードで魅力発信を行ってきました。1つ目は、地域の方々との交流。1つ目を踏まえた上で、2つ目に地域資源の発掘。3つ目に後世に繋げる記録係としての役割。4つ目にSNSでの発信です。

1つ目の地域の方々との交流では、“地域の宝は人である”と私たちは考え、この城下町の魅力について住民の方々にインタビューを行ったり、今年の10月の秋祭礼の時には、撮影班として地域の方々と交流しました。2つ目の地域資源の発掘では、篠山市にはグルメや観光、伝統、文化など、すごく有名なものがたくさんあるのですが、まだまだ発掘されていないものも考えています。そこで、地域外からやって来た私たちが外部から見た篠山の魅力を、地域内外の方々に伝えていこうと活動しています。3つ目の記録係としての役割は、制作した映像作品や写真などをまちづくり協議会に提供し、今後の地域の変化を検証するための基礎資料として残していこうと考えています。4つ目のSNSでの発信は、魅力を発信するために私たちが一番使いやすい1つのツールとして、まちづくり協議会の”Facebook”や”Twitter”などのアカウントを通して、町のイベントや私たちの活動をアップしています。

城下町地区は篠山市のこの矢印で示してある部分に位置し、私たちは篠山城下まちづくり協議会の協力のもと活動を行ってきました。活動を通して感じたことは、お祭りに参加する人は、受け継がれてきた伝統を全うするだけでなく、伝統的な太鼓みこしや鉾山に乗る子供のことも思い、子供たちの一生の思い出になるように、その担ぐ大人や鉾山を引くお母さん方が声を出し、盛り上げるなどしておられました。そして、その伝統がまた子供たち小さな代まで受け継がれていき、子供たちが主役であるという強い思いやりがこれからも受け継がれていくのだなと感じました。

続いて、これらの活動のアウトプット方法を紹介します。まず、この期間中に制作した地域の写真や映像など、貴重な地域の記録として保存します。次に、制作物をまちづくり協議会のホームページなどにアップし、知りたいときに情報を誰でも見られるように、閲覧可能な状態にしていこうと考えています。最後に、今後のまちの変化を検証するために基礎資料として、まちづくり協議会に提出しようと考えています。

最後になりますが、今後の予定としましては12月に行われる篠山ビデオ大賞に応募する映像作品の制作、編集。12月の中旬にまた篠山の城下町地区を訪れ、そこでまた取材、撮影など行っていこうと考えています。そして2019年1月に篠山城下町の住民の方々に向けた最後の活動報告会と、城下町地区全戸に配布される広報紙を作成していこうと考えています。以上で私たちの発表を終わります。御清聴ありがとうございました。

〔会場からの質疑と応答〕

（西紀南まちづくり協議会 北山氏）

御苦労さまでございます。西紀南まちづくり協議会の北山です。ただいまの発表を聞かせていただきまして、私も近隣の西紀南という地区に住んでいるのですが、以前からずっと篠山市の城下町をアピールしよう、PRしようということで、いろんな形でなされているのですが、今取り組みを考えておられる中で、やはり城下町の歴史をPRしようと思えば、城跡ということはよく言われるのですが、篠山城って城主誰なのとか、どんなお城だったのとか、結構そういうところが割と知られてないところがあります。そういったところをもし今度される時は、例えば、青山藩の城主がいたとか、東京の青山と関連があるとか、徳川の家教師もやっていたとか、そういうところをPRすると市1個の篠山というこの地域じゃなく、東京まで話の広がりが多分出るのではじゃないかと思えます。私が知っている知識でお話させていただいたのですが、やはり、そういうところまで掘り下げて動画撮影なり編集をされたらもっと話に広がりが出るのではないかなと私は感じました。以上です。

（KGU×篠山まちおこしプロジェクト）

御指摘やコメントありがとうございます。今回に至っては、篠山の城下町の春日神社の秋の祭礼にスポットを当ててこの1年活動してきたので、また次の機会があればそれも入れていきたいと思えます。

（神戸学院大学 神原先生）

お世話になっております。この彼女、彼の大学で指導教員をしております神戸学院大学の神原文子と申します。このプロジェクトは、まさに篠山城下町の特に春日神社の祭礼を中心にとということで、実はお城跡とか城主は余りこだわっていません。こだわっていないというよりは、このお祭りそのものがむしろ城下町、まさに町人の方々のお祭りなのです。300年ほどの歴史の中で城主の力ではなくて町民の方々御自分たちの力で長年ずっとお祭りを受け継いでこられました。その中で特にお祭りで、子供を主体としたお祭りであると、子供とそれからその子供を支える地元住民の氏子の方々が伝えてこられた、その魅力をこのプロジェクトではアピールしたいのです。やはり、城下町のまちづくり協議会もさまざまなPRをされているのですが、こういっては失礼なのですが、必ずしも市外に対してうまく情報が伝わってないのです。春日神社のお祭りそのものも、その魅力が伝わってないということで、学生たちがささやかではありますが少しでもその魅力を伝えたいということで取り組んでいます。しかも、実は今年の4月にこの事業に採択していただいたことで初めてスタートしたプロジェクトですので、非常に未熟ではありますが1年間何とか必死に頑張っ、彼ら彼女たちなりのまとめをしていくことができたなというふうに考えております。どうぞ御理解よろしくお願いいたします。

（さじっこ倶楽部）

活動のアウトプット方法のところ、地域の写真集とか映像をホームページにアップすることによって、町の変化を基礎資料として提供しているとのことだったのですが、何かそのホームページ以外の方法でも基礎資料を提供したりしているのですか？もし、していなければ、ほかにも基礎資料の提供の仕方の考えとして何かあれば教えていただければなと思っております。

（KGU×篠山まちおこしプロジェクト）

今のところ考えているのは、SNSにアップすることと紙媒体で城下町に置いておくことです。ネットなどでもなかなか見つからないときは見つからないので、ちょっと残るとなったら不安は

あるのですが、この方法で進めたいと考えています。

(さじっこ倶楽部)

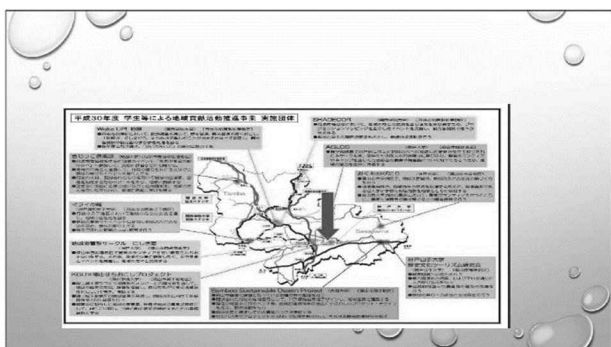
僕はすごくおもしろいなと思いました。後世に繋げる記録係としての役割を果たしたいということで、発信というよりも記録をもっとメインにやっていったらいいのではないかなと思いました。祭りもいいのですが、町の姿をそのまま残していくようなことができれば、ほかの人に繋げるというよりも、地元住民の人の幸せに繋がっていくのではないのでしょうか。僕はアルバムを見るのが好きなのですが、そういうものを残してもらえたら、地域の人にとっても、もしかしたらうれしいのかなと思います。そういう何でしょう、もっと祭り以外のことを記録していく予定はあるのでしょうか。

(KGU×篠山まちおこしプロジェクト)

お祭り以外でも城下町を訪れており、その時に住民の方々にインタビューを行っています。中でもまちづくり協議会の方々にインスタ映えするスポットなどを広めて行けたらという話も出てきており、今のところ、町の風景なども視野に入れつつ、プロジェクトを進めています。

(神戸大学木原氏)

神戸大学、木原と申します。興味深い発表ありがとうございました。コメントですが、篠山市の中には城下町もあれば各地域の中にもいろいろな祭礼があるかと思います。その中で、大学として学生が活動してきたことであったり、地域おこし協力隊がそれぞれの祭りに関わってきたというような蓄積もありますので、ぜひまた篠山フィールドステーションを活用していただければなというふうに思います。よろしくお願ひします。



活動を通して感じた事

- インタビューを通じ、祭りに参加する人は、伝統を全うするだけでなく、担ぐ子供側のことも思い、子供たちの一生の思い出になるようにしているということ。そして、そのことが小さな代まで伝統や、伝統への強い思いやりが受け継がれていくと感じた

活動のアウトプット方法

- 期間中に制作した地域の写真集、映像を地域の貴重な記録として保存。
- 制作物をまちづくり協議会のHPにアップ。知りたいときに情報を閲覧可能にする。
- 今後の町の変化を検証するための基礎資料を提供

今後の活動

- いままでに撮影した動画の編集・作成
- 12月にまた取材・撮影の実施
- 1月に活動成果の発表

(7) SHADECOR

こんにちは。関西学院大学、総合政策学部より参りました SHADECOR の松本と申します。よろしくお願いいたします。まず、今回は SHADECOR の紹介と柏原での活動について説明していきたくと思います。

SHADECOR とはどんな団体かという、物づくりを通して地域に貢献していく団体です。例えば、プロジェクションマッピングの作成をしています。逆にゲームの制作や、VRなどの制作も行っています。幼稚園や大学、大阪府のほうからも依頼をもらっています。

SHADECOR の活動として、プロジェクションマッピングイベントを10月7日に行われた Wake UP! 柏原さんの「かいばらいと」と一緒に協力して開催しました。開催場所は黎明館という柏原町の町のシンボルでもある場所で行いました。プロジェクションマッピングは、窓や建物の形によっておもしろさが出ます。そこを重視してこの黎明館という建物を選びました。柏原町で行うに当たり、どういうテーマがいいのかと考え、柏原の観光の名所をテーマとして制作することにしました。これにより住民の方への観光資源の再認識や、外部から来られた方にはこういう観光名所があるのだと魅力を知ってもらい、後日また来てもらえることにつながればと考えました。ほかにも町の雰囲気に合わせて、和柄や、織田家の歴史を象徴するようなデザインで町の歴史を再認識してもらったり、また柏原町の自然を表現して、桜や雪で四季を表現したものを行いました。

こういうデザインを考えるに当たっては、どういうデザインがいいか考えながら実際町を歩いてまわりました。一方、若い人の力も取り入れたいということで、建物を生かした形で逆に普通のプロジェクションマッピングも行いました。窓や建物の柄が変化することがプロジェクションマッピングの醍醐味でもあります。どういうふうなものかというのは多分見ていただかないとわからないと思うので、実際に見ていただきたいと思います。

これがさっき言った、和柄を意識したものです。

ここから少し織田家をイメージしたものを作成しています。

こういう感じでイベントを行いました。実際に延べ300人ほどの来場者がいらっしゃいました。今年度で2年目になり、3回目を行いました。次年度以降続けていけるようなイベントにしたいです。今のところ黎明館だけなのですが、他の所でもやりたいと考えています。

以上で SHADECOR の発表を終わります。ありがとうございます。

【連携先の柏原自治協議会からのコメント】

「かいばらいと」の充実を図るために SHADECOR というグループがあります。たまたま今発表してくれている方が2年のときに、現地にフィールドワークに来ていまして、それで話が進みました。これを初めて見たときの柏原町の皆様方の反応はすごいものがありました。それで、このバージョンとクリスマスバージョンの2つを作っております。ただ、非常に経費がかかります。運がよかったことに、まちづくり柏原がいい決算をしていましたので、結構な予算を投入することができました。これが5年前でしたら絶対にできていないと思います。1回つくっておけば、何回もそれを上映することができます。ただ、これを上映する際には交通安全のためにガードマンをたくさん置かなくてはならないので、その経費が非常に高かったです。ですので、今年は歩行者天国にしないで「かいばらいと」を行い、経費も非常に安くつきました。地域の人はとても楽しみにしておられますので、あとはいかに、こういうことをやっているのだということを広める手段を、考えていきたいと思っています。以上です。ありがとうございます。

〔会場からの質疑と応答〕

（さじっこ倶楽部）

プロジェクションマッピングを通して地域活性化につなげるという発想が出てきたきっかけといますか、どういう経緯でプロジェクションマッピングを使って人を呼び込もうという考えに至ったのか、お聞かせいただければと思います。

（SHADECOR）

先ほど、荻野さんから話があったように、昨年度2年時のときに僕は授業でフィールドワークに参加させてもらっていきまして、そこで荻野さんと知り合いました。僕がこういうプロジェクションマッピングの活動をしています、ということをお話ししたところ、一緒にやろうじゃないかという話で、話が進んでいきました。

（神戸山手大学歴史文化ツーリズム研究会）

この活動するに当たって、宣伝活動を結構されたと思いますが、どのような宣伝活動がよかったか、何か課題が見つかったか、など教えていただきたいです。

（SHADECOR）

僕たちのほうは、宣伝活動をSNSのみでしかしていません。あとはWake UP! 柏原さんがお手伝いをしていただき、宣伝活動ができました。SHADECORには今16名ほどしか所属してなくて、ほかのプロジェクトと並行しながらやっていたこともあり、なかなか宣伝に手が回らず、制作が主になってしまったところが現状としての課題ですね。

（神戸大学の学生）

お話とすてきな映像ありがとうございます。プロジェクションマッピングのイベントをされたときは、プロジェクションマッピングのイベントのみを行ったのですか。例えば御堂筋の大阪イルミみたいなものは、イルミネーションと一緒にいろんなお店が出て、とてもにぎやかでしたが。こちらでも丹波や篠山の特産品を売る店があれば、さらに地域活性化に繋がるのではと思ったのですが・・・。どういったイベントをされたのか詳しく教えてほしいです。

（SHADECOR）

当日は、Wake UP! 柏原さんの「かいばらいと」と一緒に行い、Wake UP! 柏原さんの「かいばらいと」の時間やほかのイベントとかぶらない時間でプロジェクションマッピングを行いました。

（おくものがたり）

例えば、僕が活動しているのは小学校ですけど、小学校で例えば夜市などを開いたときに、プロジェクションマッピングの機材を小学校まで持ってきて実演することは、可能でしょうか？

（SHADECOR）

可能ではあると思いますが、実際1分つくるのに大体10時間ぐらいかかります。それに加えて機材、音響、プロジェクター、ソフトなど、先ほど荻野さんもおっしゃられたように結構、費用がかかってきます。以前、幼稚園でやったことがあります。なかなか田舎のほうの小学校では厳しいです。僕たちはやりたいのですが、今後できるのかどうかは相談が必要だと思います。

（おくものがたり）

ちなみに、それを皆さんが創るときの費用は、規模にもよりますが大体どれくらいですか？

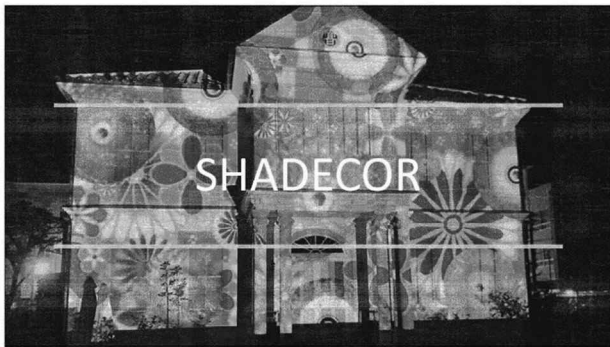
（SHADECOR）

大体ソフトが1カ月で3,000円ぐらいかかります。それを10人ほどでつくと、制作がまず1分つくるのに10時間かかります。1回の公演で大体12~13分のプロジェクションマッピングを作

ります。プロジェクターの大きさにもよりますが、20万円くらいあればできるのかなとは思っています。

(地域の方)

私自身がもう一つ認識不足で、Wake Up! 柏原さんとこのSHADECORさんは別々なのですね。こちらとしては、関西学院大学の学生さんがやってくれているプロジェクトというふうな捉え方で、これは町の中のほとんどがそうじゃないかと思います。荻野会長はちゃんとわかっていらっしゃる方ですが……。それで、ちょうど織田まつりの時期だったのです。前々夜祭のときに来ていただく予定でしたが、雨が降ってすごくお天気が悪くて、それで前夜祭の能の実演とともにしたのですが、だから余計にお客さんがたくさんお見えになって喜ばれたと思います。織田まつり当日は、関学の生徒さんが浅井三姉妹などに扮していただいてですね、いろいろと町のいろんなイベントに参加していただき、地域の者は大変喜んでいきます。ありがとうございます。



Outline

- SHADECOR紹介
- 柏原での活動

SHADECORとは？

- ものづくりを通して、地域に貢献をしていく団体です
- 主にプロジェクションマッピングの作成を中心に他にもゲーム制作、VR制作なども行っております

SHADECORが活動

SHADECOR
プロジェクションマッピングイベント
10/21(日)

Wake up! 柏原の
協力していただき開催



開催場所

黎明館

柏原町の町のシンボルである場所

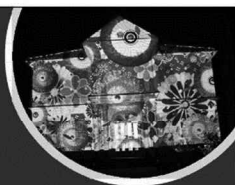


柏原町観光名所

- 柏原八幡宮
- 木の根橋

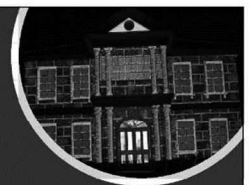
まちの雰囲気に合わせて

- 和柄をイメージ
- 四季を表現



建物の形を活かした

- 建物柄が変化
- 窓に合わせて変化



(8) 神戸山手大学歴史文化ツーリズム研究会

神戸山手大学歴史文化ツーリズム研究会です。福住地区での活動の中間報告をしていきます。僕たちは3つの活動をしてきました。まず、祭礼のお手伝いと、次に獣害の資源化と、さらに地域の魅力を伝えるという活動です。最後に今後の課題について話していきたいと思います。

本年度は4月から活動をスタートしまして、若手猟師さんと意見交流会をしたり、7月から10月にかけて4つのお祭りに参加させていただきました。さらに10月には大学祭で鹿肉料理を販売させていただいたり、2月にシカフェスというものを開催予定にしています。

では、まず祭礼のお手伝いについてご報告をいたします。ことしは4つの祭礼にお手伝いをさせていただきました。まず、昨年も参加しました、水無月祭です。ここでは2つの集落に分かれ、地域の人たちと一緒に山車を引き、交流をすることにより、さらに地域の方たちと親睦を深めることができました。次に、八朔祭です。ここでは4つの集落に分かれての参加になりました。この日は悪天候のため山車を引き始めるのが遅れましたが、その遅れた時間を使って集落ごとに交流を行い、さらに親睦を深めることができたと思います。こうして、毎年祭礼のお手伝いをすることにより、ほかの集落の方からうちのところでも参加してくれないかということで、お誘いがありました。波々伯部神社の祇園祭では初めて兵庫県立大学の学生さんと一緒に、北嶋集落の山車を引くことができました。最後に、春日神社の祭礼ということで、約80年ぶりに行われまして、川阪集落の皆さんと一緒に開催をしました。私たち神戸山手大学の学生が参加をすることによって、若い力というのをフルに使えたと思っています。

次に、獣害の資源化について報告をします。大学祭の模擬店では、鹿焼き肉等を出しました。主要な材料は全て篠山のものです。今年で4年目です。販売数も、人数も年々ふえています。獣害の資源化の2つ目ですが、去年に引き続き今年も、2月上旬にシカフェスの開催を企画しています。鹿肉や角を活用する体験を通じて、獣害の資源化と関係人口の増加につなげることを目的としています。昨年度のシカフェスでは、まず、若手猟師さんの話を聞いたり、鹿肉を皆さんで調理をしたり、それを食べたり、他には角とレジンでアクセサリを作ったりもしました。今年は新たに、解体見学も考えています。解体見学を通じて命のありがたさや大切さを改めて考え、その考えを共有することが目的です。課題としては、解体の様子を参加者の方が見られるかどうかという点が1つあり、それを猟師の方とまた改めて話をしていきたいと考えています。

次に、地域の魅力を伝えるということで、今年度の活動の大枠である情報発信の”Instagram”とモニターツアーの企画について報告していきます。現状としては、福住の情報発信は”Facebook”だけです。僕たちのターゲットは若者や外国人なので、流行りである”Instagram”を立ち上げて、自分たちの活動報告と地域の魅力をビジュアルで発信しているところです。そして、最終的に関係人口の増加に結びつけたいと思っています。現状としましては、福住の魅力や、先ほど報告した活動内容を日本語だけでなく英語でも発信します。海外のアカウントからのアクションがあったり、目的や内容に見合った効果的なハッシュタグを使い、ビジネスアカウントを上手に使い、地域の方と協力して活発的なアカウント作りをしていきたいと思っています。

Fukusumi_Picの目標は地域のためにできることを大前提としています。学生の力は、個人個人での力はそこまでありませんが、SNSはとても強力ですので、SNSの力と若者の爆発力を生かして、3月末日までにフォロワー500人を目指しています。

次に、モニターツアーの開催を考えています。まだまだ訪問者の少ないこのツアーで、少しでも篠山市と福住の魅力を知らってもらうために開催したいと考えています。ツアーを検討するに当たり、

城跡登りや住吉神社の有名な庭の整備体験をさせていただきました。さらに、JTBの方と企画を相談させていただきました。ゼミのメンバーや地元の人たちとの話合いで、どう魅力を伝えていくかの意見交換をさせていただきました。開催予定は、4月から5月で、もっと広めていくために神戸の外国人学校に通う生徒を対象に行っていきたいと考えています。

最後に、これまでの成果と今後の課題についてです。まず、祭礼のお手伝いという点では、地域の祭りを盛り上げることができ、若手の方々には、次はもっと盛り上げようと言ってもらいました。しかし、やはり人数が少なかったり、若者が少ない地区では山車がうまく上がらなかったりと、伝統維持の難しさを痛感しました。ツアーの企画では、靄井城に登りましたが、整備が必要ではないかという意見が多かったです。情報発信の点では、”Instagram”のアカウントを立ち上げることができましたが、やはり地元の方々はガラケーの人が多く、また外部の人間の視点というのを踏まえて、写真の撮り方を今後検討していく必要があると思いました。今年の課題は、地域の若者世代との交流を増やしたい、若者世代と上の世代をつないでいきたい、地域の方と外の人をつなぐ機会を増やしていきたいという3点がありましたが、今年は改善できたのではと思っています。苦労した点は、やっぱり篠山と神戸のギャップに驚きました。ツアーの企画は初めてですので、どのように進めるか苦労しています。今後の課題は、シカフェスやツアーを頑張ってやっていきたいなと思っています。地域の方の学生に対する期待は、やっぱり祭礼を元気に盛り上げてほしいであったり、若い人をもっともっと呼び込んでほしいという点です。自分たちの活動が目指すものは、地域の課題に関心を持って手伝ってくれる人たちを増やしていくことです。

この地域を元気ある地域にしていきたいと思っています。

発表を終わります。ありがとうございました。

〔会場からの質疑と応答〕

(地域密着型サークルにしき恋)

歴史文化ツーリズム研究会は何人ぐらいで活動をしているんですか？

(神戸山手大学歴史文化ツーリズム研究会)

この3年生と、あとプラス4回生の方と16人が協力して、20人弱でやっています。

(地域密着型サークルにしき恋)

その3回生と4回生の方が中心で、その3回生4回生の方が卒業するまでの短期間でコミットしてやっていきたいという感じなのでしょうか。

(神戸山手大学歴史文化ツーリズム研究会)

一応、ゼミ活動の一環で活動しているので、次に入ってくる今の2年生であったり、1年生が3回生になったときに、ゼミで活動をしていくという流れで今までできています。

(地域密着型サークルにしき恋)

なるほど、その新しくゼミに入ってくる2回生を、この福住の地区に呼び込むためにどのような活動をしたらいいのか、どのような情報発信をすればいいかという点についてはどうでしょうか。

(神戸山手大学歴史文化ツーリズム研究会)

今は、とりあえず祭りに参加したり、先ほどゼミに関係ない2回生や1回生を呼んで、僕たちは今こういう活動をしているんだと、彼らに色々売り込んでいるという状況ですね。

(おくものがたり)

ゼミ活動ということは最終的に卒論か何かを提出されるということになり、そうすると、最後の

卒論は共同論文、それとも個人でテーマを何かを決めてですか。

(神戸山手大学歴史文化ツーリズム研究会)

個人でやっています。

(おくものがたり)

ちなみに3回生の皆さんはもう既にテーマを決められているのですか。

(神戸山手大学歴史文化ツーリズム研究会)

ある程度の大枠みたいなのは一応考えています。

(おくものがたり)

もし差し支えなければ、そのテーマを教えていただけたらと思います。

(神戸山手大学歴史文化ツーリズム研究会)

僕は一応、獣害という大きなくくりでしか考えていません。その中で柵の設置であったりと、いろいろな活動をしており、自分のテーマにつなげていければというふうな思いで活動しています。

(さじっこ倶楽部)

JTBさんとツアーの企画の相談というお話がありましたが、規模の大きさにもよるとは思いますが、1つのツアーを計画するのにどれくらい時間をかけているのか教えていただければと思っています。

(神戸山手大学歴史文化ツーリズム研究会)

今、週1回、ゼミの活動として集まっています。その活動の中の一つとして、ツアーの企画をやっておりますが、やはりJTBの人からは厳しいことを結構言われています。自分たちで活動できる範囲でということで、不特定多数を対象にするとやはり難しいみたいです。ですので、外国人学校に売り込みに行って、ある程度人数を集めてやっていこうかなという、今はそういう段階です。

(Wake UP! 柏原)

まだ先の話になると思うんですけども、モニターツアーが完成したときに、こちらにターゲットは外国人留学生と書かれておりますが、どういう方法でその外国人の方にツアーに参加してもらうのか教えていただきたいです。

(神戸山手大学歴史文化ツーリズム研究会)

先ほども言いましたが、神戸には結構外国人学校がありますので、そこの学校に直接出向いて、先生に売り込みをかけて、ポスターやいろいろな広告を学内に貼らせていただいて募集をするという形で今は考えています。

福住地区の活動中間報告

神戸山手大学
歴史文化ツーリズム研究会

目次

1. 本年度の活動及び予定
2. 祭礼のお手伝い
3. 獣害の資源化
大学祭の出店
シカフェス（開催予定）
4. 地域の魅力を伝える
Instagramの活用
体験ツアー（開催予定）
5. 今後の課題



1. 本年度の活動及び予定

4月21日	今年度の活動打ち合わせと交流会	11月10日・11日 18日	大学祭で鹿肉調理を販売 中間報告
5月22日	一本杉販売所のお話を伺う	12月・1月	若手猟師の方々による鹿の解体
6月2日 17日	審査会 若手猟師さんと意見交換交流	2月	シカフェス開催予定
7月1日 22日 27日～28日	黒豆の種まき Instagram打ち合わせ 水無月祭りのお手伝い	3月	最終活動報告会
8月4日～5日 31日～9月1日	波々伯部神社の祭礼のお手伝いと八上場親庵 ワイス菰山のインバウンドツアー見学 八朔祭りのお手伝い		
10月22日	春日神社の祭礼		

2. 祭礼のお手伝い

伝統文化の維持と継承

水無月祭り（7月27日）

【場所】

住吉神社

【活動内容】

川原集落・福住中集落の2つの集落のお手伝いに参加。地域の方々と一緒に山車を曳き、住吉神社へ奉納した。

山車を集落に持ち帰ったあとは、地域の方々と交流会。



八朔祭り（8月31日）

【場所】

熊野新宮神社

【活動内容】

小野新・小野奥谷・箱谷・二之坪の4つの集落のお手伝いに参加。地域の方々と一緒に山車を曳き、熊野新宮神社へ奉納。



他の集落からのお誘い

福住以外での山車を曳くお手伝い

波々伯部神社の祇園祭（8月4日）

【場所】

波々伯部神社・北島集落

【活動内容】

兵庫県立大学の学生と一緒に、北島集落の山車曳きのお手伝いに参加。

地元の若者たちと協力し、交流を深めながら山車を曳き、祭りを盛り上げました。



春日神社の祭礼（10月20日）

【場所】

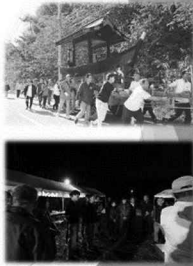
春日神社・川阪集落

【活動内容】

約80年ぶりという川阪集落の山車の里帰りの取り組みをお手伝い。

宵宮のために春日神社から川阪集落まで、山車を約3.5km曳いて持ち帰りました。

夕方からは、地域の方の手作り料理を囲んで宵宮を一緒に楽しみました。



獣害の資源化

獣害を活用し、資源と交流を生み出す

大学祭での模擬店の出店

- ▶ 実施日：11月10・11日（2日間）
- ▶ メニュー：鹿焼肉丼（500円）
- ▶ 材料：鹿肉（篠山産）、米・玉ねぎ（福住産）
- ▶ 販売数：209食（一昨年166食⇒昨年180食）



『シカフェス』の開催（準備中）

目的：鹿肉や角の活用する体験を通じて、獣害とシカの有効活用について考える
⇒地域に関心をもって関わってくれる『関係人口』の増加につなげる

日時：2月上旬

場所：ささやまの森公園

内容：シカの角を使ったアクセサリー作り体験
シカ肉の調理体験
シカの解体見学



昨年のポスター

昨年度の『シカフェス』

内容：若手猟師さんのお話
鹿クイズ
調理体験と試食
角とレジンでアクセサリー作り



新しい体験：解体見学

【主旨】

自分たちが食べる『命』の有り難さ、その大切さを共有する。

【課題】

参加者全員が解体の風景に耐えられるかどうか。



猟師の方と相談して進め方を考える。



昨年度の学生向け解体体験の風景

地域の魅力を伝える

情報発信とモニターツアーの企画

①Instagramの取り組み

【現状】

- ・福住の情報発信はFacebook中心
- ・ネット上で情報発信する力が弱い

⇒流行りのInstagramを協力して運営

- ▶ ターゲット：若者・外国人
- ▶ 目的：地域の魅力と自分たちの活動をビジュアルで発信
⇒情報発信+関心を高める
=関係人口に結び付けたい



現状と展開

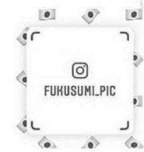
- 福住の魅力と活動内容を発信中
- 日本語だけでなく英語も併用したグローバルアカウント
 - ⇒ 海外のアカウントからのフォロー
- 目的、内容に見合ったハッシュタグ
- ビジネスアカウントの利用による閲覧状況の分析
 - ⇒ より広く見てもらうための工夫



地元の方と協力→活発なアカウントへ！！

“Fukusumi_Pic”の目標

- 地域のために出来ることを...
- 学生の力は微力、しかしSNSは強力！
- ・ 福住の魅力を情報発信
 - ・ 世界の人に福住のことを認知・理解
 - ・ 興味や関心を持ってもらう



若者×流行の爆発力を活かす！！
目標：3月末日までにフォロー500人！！

②モニターツアーの開催（準備中）

- 地域×学生の体験を主体とするモニターツアーを企画中！

趣旨：まだまだ訪問者の少ない福住地区の魅力を体験し、福住・篠山を好きになってもらいたい

ターゲット：外国人（在住者・観光客）

目的：福住の魅力を体験し、肌で感じてもらう
体験をSNSで世界に発信してもらう
交流を通じて地域の方も楽しんでもらう

ツアーの企画にむけての準備①

- 体験メニューの検討
 - ▶ 八上城址、栲井城址の登山
 - ▶ ウイズ篠山によるツアーの見学と話し合い
 - ▶ 住之江の庭の整備体験



ツアーの企画にむけての準備②

- ▶ JTBにツアー企画の相談
- ▶ 大学ゼミ内での話し合い
- ▶ 地元の方との話し合い



【現在の予定】

時期：4～5月

対象：神戸の外国人学校に通う生徒

これまでの成果と今後の課題

これからの地域貢献活動にむけて

これまでの成果

活動	得られた成果	感じたこと
祭礼のお手伝い（水無月祭り、八朔祭り、狐園祭、春日神社の祭礼）	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域の祭りを盛り上げることができた。 ● 若手の方々に、次はもつと盛り上げよう！と語ってもらえた。 ● 伝統文化の維持に少しでも貢献できたのではないかと。 ● インスタでの魅力の発信が出来た。 	<ul style="list-style-type: none"> ● それぞれの地域でそれぞれの祭りがある。地域の個性を感じた。 ● 日本らしい儀式を感じた（留学生） ● 人数が少ない、または若者が少ない地区では山車がうまく上がらなかった。伝統の維持の難しさを体感した。
ツアー企画の準備	<ul style="list-style-type: none"> ● 「ツアーを企画する」ということを地域の人と一緒に考えることが出来た。 ● 地域の方と栲井城跡を視察し、整備が必要であることを確認できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 魅力ある資源を「体験する」という点で、工夫や整備が必要ではないか。 ● 観光客の受け入れについては、地域の方々の理解を広げる必要がある。
情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ● Instagramのアカウントを立ち上げた。 ● 地域の方にインスタへの意欲を持ってもらえた。 	<ul style="list-style-type: none"> ● ガラケーの人が多いのが難点。 ● 「外部の人間」の視点を踏まえた写真の撮り方を検討する必要がある。
交流会	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域の人たちとの親睦を深めた。 ● 地域の課題を一緒に再確認することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 何事にも興味を示して笑顔で話を聞いてくれるので、活動しやすい。

昨年の課題と今年の改善努力

- 【昨年の課題】
- 地域の若者世代との交流を増やしたい
 - 若者世代と上の世代をつないでいきたい
 - 地域の方と外の人をつなぐ機会を増やしたい

- ➡ 【今年の改善努力】
- 交流会に若い世代の人たちにも来てもらい、交流を深める。
 - 意見交換やイベントの計画に、若い世代と上の世代の方々に一緒に参加してもらう。
 - シカフェスやツアーで交流する機会を作る。

苦労した点、今後の課題

【苦労した点・出来ていない点】

- 自分の生活する神戸と篠山のギャップに最初は驚いた。
- ツアーの企画は初めてなので、どのように進めるか苦労している。
- Instagramを活用する上で、ガラケーが多い＝地域主体の情報発信の難しさを実感。
- 投稿数とフォロワーを増やし、エンゲージメントを活用する。

【今後の課題】

- シカフェスやツアーを若者世代と一緒に運営する。
- イベントの参加者を集める広報活動。
- Instagramのフォロワーを増やす。

地域から感じる期待と、自分たちの活動が目指すもの

【学生に対する期待】

- 祭礼を元気に盛り上げて欲しい
- 若い人をもっと呼び込んで欲しい
- 新しい技術で福住の情報をもっと広めて欲しい etc.

【自分たちの活動が目指すもの】

- 地域の課題に関心を持って手伝ってくれる人たちを増やす
- 地域の方と都市の人が気軽に交流できる場作り
- 篠山・福住の魅力を日本だけでなく世界の人にも知ってもらおう
- 最終的に、活気ある創造的な地域にしていきたい

ご清聴ありがとうございました

(9) さじっこ倶楽部

皆さん、こんにちは。さじっこ倶楽部の発表を始めさせていただきます。富江と申します。

まず、お手元のポスターを一旦見ていただいでよろしいでしょうか。さじっこ倶楽部というのは、丹波にある空き家や、空き地、使われていない資源などを、学生側の視点で使い方を提案して、実践していくことで、もともと丹波にはなかったような風景をつくり出していければと思い活動している団体です。

では、活動報告です。10月までの活動は、次の3つになります。モクタンバプロジェクト、空き家キャンプ、ワークショップの運営になります。他にもいろいろとやっておりますが、今日はこの3つについて報告します。

まず、モクタンバプロジェクトについてです。僕たち建築学科を中心に、丹波にある木材を使って、空き家や空き地にもっと違う空間性を持たせるようなことを考えています。それで実際に行ったのがこの古本市を作るというものです。この地域で古本をどうにかしたいという住民さんがいらっやって、そこからプロジェクトに発展しました。空き家を僕らのほうで改修した場所があり、右上のほうにある写真の中から木の単管というか、丸い材を使って家から飛び出していくような形で本棚を作成しました。

2番目ですが、空き家ギャラリーという、同じような木の木材を使って空き家の空間を拡張させていきます。もともと窓だけだったらコーヒーショップなどはなかなか作れないと思いますが、木を窓からはい出さすことによって、コーヒーショップが作れるようになりました。

3番目に、あおがき道の駅のタベというお祭りで、ステージを作成させていただきました。もともとは青空の中でやっていましたが、今回また同じように木の線材を使ってこういった囲いをつくることで、よりステージ感や、地域にとって何かいい風景ができればということで作りました。

次に空き家キャンプについてです。空き家の改修の前段階のプロジェクトですけれども、その空き家に実際に泊まることで空き家の使い方を考えてみようということです。初めに空き家の掃除をして、実測して図面を引きました。これが実際にキャンプしている風景ですけども、この空き家に実際に泊まって御飯を食べたり、お風呂もドラム缶風呂ですけど用意して入ったりしました。最終的には空き家でバーを開きまして、地域の方との交流の場所にするのであったりとか、今後この空き家がどういうふうになっていけばいいのかという事を住民の方と話し合いました。最終的に僕らのほうでも1つ、こんな形になればいいなという提案をしました。左上にシートのような形でまとめて地域の人に発表をさせていただいたのですけれども、いろいろな人に集まっていたいで、これからの空き家の可能性などを一緒に考えられたと思います。

最後に、ワークショップの運営というのがありまして、丹波の技術者の方々の技術をもっと外に発信していこうということでやっております。例えばこの表具師さんが地元におられますが、その人の技術を使ってミニ掛け軸をつくるワークショップを開いて、関西大学生や地域の方、さらにはほかの地域の方も呼んで、この技術を紹介しています。ほかにも左官額ワークショップとあって、左官職人の方の技術を使ってタイル張りを用いた額をつくりました。ほかにも、丹波布の技術者の方がおられますが、その丹波布は草木染を使って作られており、その技術を使った手ぬぐいを作りました。

この活動を通じて感じたことは、今あるものにどう手を加えれば新たな可能性を生み出せるか、ということを考える楽しさであったり、自分たちが考えた古本市や、祭りの空間性であったり、空き家をどうしていくかということ、僕ら自身が提案して作り、それが地域の人々に喜んでもらえ

たときの嬉しさをとても感じました。

活動後のアウトプット方法ですけれども、“Facebook”での報告と、「さじの日曜日」というタイトルで毎年冊子をつくっており、こういったワークショップの内容などをまとめて、地域の人や大学で配っています。

今後の活動についてですが、活動の後継者不足というのがありまして、これからどんどん下回生とか、建築学科だけじゃない学部生とか、他大学も巻き込んでやっていきたいと思っています。

今後の活動への思いですが、さじっこ倶楽部がプラットフォームになればいいなという思いがあります。いろいろな学生とか人々がやりたいということ、この佐治の場所でやり、それが地域の人々に対して貢献していくようなものになればいいなというのを個人的に思っています。最終的には、発信とかよりも地域の人々にとってより幸せになれるというか、いい生活になれるような活動ができればいいなと思っております。

〔連携先の佐治倶楽部からのコメント〕

地域側の人間として、一言。今日は関西大学、いろいろなところでイベントが重なっていて、なかなか来られないところもあって、僕がかわりに地域代表でしゃべりたいなと思います。

佐治倶楽部という空き家活用サークルを地元で作っています。そのメンバーや地域の団体等の皆さんは勉強をしてくれていて、僕たちも一緒に活動しながら、できるだけ学生のみんながやってみたいこと、チャレンジしてみたいことをサポートしたいなという思いがあります。時には野放し過ぎるところもありますが、それでも、学生の皆さんが自分たちの活動をきちんと反省したり、振り返ることができるなというのを常々思っています。最初の頃は、自分たちの活動が自分たちのひとりよがりになっていないか、そこら辺はなかなか難しかったと思います。これまでの先輩からの思いを引き継ぎながら、地域の幸せや豊かさにつながっていくためにはどうしたらいいのか、ということをつまみ取られるようになってきているということは、とても心強いと思っています。僕も学生たちの活動を、きちんと地域側につなげていくという役割を全うしていきたいなと思っています。学生の方には今後も楽しく活動していってもらえればなと思います。

ありがとうございました。

〔会場からの質疑と応答〕

(Bamboo Sustainable Design Project)

同じく建築を学んでいるので、気になった点が幾つかあり、2点質問をします。1点目がモクタンバプロジェクトについてです。木単管を結構使われているようですが、木単管とのつながりがちょっとあるのかなというのが気になったところです。2点目がワークショップについてです。私たちがプロジェクトの中でワークショップをしたいねという話がありますが、ワークショップをするときの資材の準備や、こちらが教えるときは、どこまで教えた方がいいのか、資材費がかかる場合は参加費をとったほうがいいのではないのかかというところで、なかなか難しく実現できておりません。そのようなところはどういうふうに解決されているのかお伺いしたいです。

(さじっこ倶楽部)

最初に木単管についてですが、木単管そのものは使っておりません。もともと僕が木単管を使って、こんなのやれたらいいなと思ったのですが、買うにはちょっと高いとなり、それで地元の製材所さんと相談して、もともと木のくいがあったのですが、その木のくいを流用してああいうもの

ができればというのでやっけていて、その木単管とつながりが全くないので、ちょっとグレーなところはありますけれども。

(Bamboo Sustainable Design Project)

木単管の接合部分はグループで設計してつくられているということですか。

(さじっこ倶楽部)

接合部分は鉄パイプなどのクランプだけなので、別に誰でもできるのでやっています。

ワークショップについてなんですけども、そもそも僕たちの基になる団体、佐治倶楽部というのがありまして、そこに所属する方がメインに運営をやっけていただいています。僕らは運営のお手伝いという形で、正直どうやってワークショップの運営をしているのかはわかっていないので、お力になれないかもしれませんが、また何かあれば聞いていただければと思います。

(地域密着型サークルにしき恋)

すごく単純な質問ですけども、皆さん、関西大学に今在籍されていると思いますが、住んでいるのは関西大学周辺ですか。

(さじっこ倶楽部)

はい。

(地域密着型サークルにしき恋)

この丹波市の佐治地区まで大阪からだとかかなり遠くて、移動が大変じゃないのかなと思いますが。

(さじっこ倶楽部)

それは確かにそうですね。

そうなのですが、補助金を出していただいているので、交通費が賄われたり、本人のやる気次第というか、根気で通っています。

(地域密着型サークルにしき恋)

多くの人から訪れる可能性がある、とてもおもしろい活動だなと思いました。多くの人を呼び込むために、今僕たちの移動手段として電車などがあり、利便性が高いとは言えないけれども一応あるというので、多くの人にも来てもらっていると思います。丹波市に行くコストを抑えることができれば、もっと多くの大学生が佐治地区に足を運んでくれるのではないかなと個人的には思いました。

(さじっこ倶楽部)

ありがとうございます。そうですね、その交通費に関しては結構、いろいろな議論が交わされたんですけども、結果、割と根気次第みたいになっているような気がしています。あくまで僕はたくさんの人を呼び込むというよりも、今暮らしている人の暮らしが僕らの活動でどれだけよくなるのかという、できればそこをやりたいと思っています。ですので、まずは人を呼ぶよりも僕らが行ってどんなことができるのかということを考えています。交通費もどうにかしたいですね。



さじつこ倶楽部



もくじ

- 活動内容報告
- 活動を通じて感じたこと
- 活動後のアウトプット方法
- 今後の活動について



10月までの活動報告。

- モクタンバプロジェクト
- 空き家キャンプ
- work shop の運営



モクタンバプロジェクト

丹波の木材をもっと活用し、地域に貢献することを目指す。企画やイベントの中でのツールであったり、空間づくりを丹波の木材を用いて行う。

地域の要望をかなえるようなツールの作成や、より豊かに暮らしていけるような空間を提案しそれらをストックしていく。



古本市
本棚と空間作成



空き家ギャラリー
木線材による空間拡張



あおがき道の駅のタベ
ステージ作成
木線材による空間作成



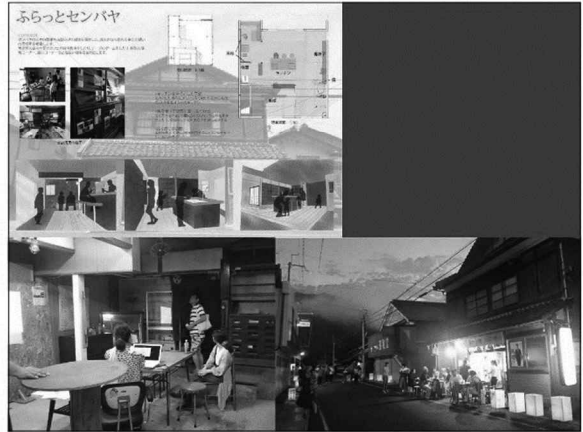
空き家キャンプ

空き家でキャンプというテーマのもと空き家の新たな利活用の姿を考えストックしていく。

空き家を実際使ってみながら、風を通したり、掃除をすることで建物の寿命を伸ばし、町の空気を明るくする。

実践しながら空き家の可能性を探り、使い方を生み出していく。





Work shop の運営

丹波特有の技術をもつ地元の方たちに講師となってもらい、体験的に丹波を感じ学んでもらう。学生だけでなく様々な人にとって丹波を知ってもらいこれから来てもらうためのキッカケにもなる。



ミニ掛け軸WS



左官額WS



草木染めWS



活動を通じて感じたこと

- 今あるものに手を加え、新たな可能性を見出すことの楽しさ。
- 自分たち考えたもの、作り上げた空間で人々が活動してくれたときのうれしさ。



活動後のアウトプット方法

- WSでは「さじの日曜日。」というタイトルでまとめの冊子を作る他、Facebookにも投稿。
- モクタンバプロジェクトでは、使い方の指南書のようなものをつくる。



limada blue school ⑩
たんばの日曜日。
丹波布 × 草木染 work shop

6月17日(日) 晴れ
講師：内藤孝子さん、小松定子さん
担当：内藤孝子、内藤真由

庭木で染める染色ワークショップ

今回のワークショップでは、「庭木染」という、庭の樹木から自然の色素を抽出し、草木染の染料として使用する染め方をご紹介します。庭木染は、草木染の中でも比較的簡単にできる染め方です。また、庭木染は、草木染の中でも比較的簡単にできる染め方です。また、庭木染は、草木染の中でも比較的簡単にできる染め方です。

丹波布、草木染、てぬぐいづくり。

今回は、丹波布の染色について体験することができました。そのおかげで、夜行書もできて、オリジナルのてぬぐいもできました。また、草木染の染料もつくりました。今回のワークショップは、とても楽しかったです。また、草木染の染料もつくりました。今回のワークショップは、とても楽しかったです。また、草木染の染料もつくりました。

草木染の手引き。

1. 糸につける。 2. 染液を染める。 3. 乾燥させる。

完成→1!

丹波布の伝統的な染め方で、丹波布を染め、新しい自分のものを作るのはとても楽しいです。今回は、庭木染を使って、丹波布を染めました。庭木染は、草木染の中でも比較的簡単にできる染め方です。また、庭木染は、草木染の中でも比較的簡単にできる染め方です。また、庭木染は、草木染の中でも比較的簡単にできる染め方です。



limada blue school ⑪
たんばの日曜日。
丹波布 × プランター作り work shop

5月29日(日) 晴れ
講師：内藤孝子さん
担当：内藤孝子、内藤真由

プランター作りワークショップ

今回は、「植物の育て方」と題してプランター作りを通して、植物の育て方について学びました。また、プランター作りを通して、植物の育て方について学びました。また、プランター作りを通して、植物の育て方について学びました。

何ていう木材?

1. 材料された木材をやすりと磨きカクツを削って調整します。 2. ビスを打つところにビスを打つて木が固定されるように調整します。 3. 穴を開けたところにビスを打つていよいよ完成です!!

木の性質を肌で感じる

様々な種類の木材をさわって、木の性質について肌で感じることを体験しました。また、木の性質について肌で感じることを体験しました。また、木の性質について肌で感じることを体験しました。

完成!!



今後の活動について

- 活動を続けていくための課題
 - 活動後継者の不足

活動に学部の縛りなく下回生を巻き込んでいく
告知に力を入れていく (SNSの活用、説明会の実施)



● 今後の活動への思い

さじっこ倶楽部をプラットフォームに学生が興味のあることを実践する場として、丹波に来て、その中で地域の人々が喜んでくれるようなものを継続的につくりだしていくことを目指す。



(10) おくものがたり

とりを飾らせていただきます。おくものがたりです。ケーキづくりが趣味です。失笑ですね。

私たち、おくものがたりは大芋活性化委員会とともに大芋地区の活性化を目的に設立された団体です。大芋地区は篠山市の東部に位置し、交通の便が少し悪い地区ですが、Mランドさんの送迎サービスで移動ができますので、そこら辺は何ら支障がありません。

私たちの活動は、地域の財産である旧大芋小学校の利活用策を検討する資源利活用、地域住民間や地域内外との交流の場づくりを行う地域交流、そして、農作業や農村の暮らしを経験するとともに、農家と消費者を直接つなぐなどの農業振興の3本柱です。例年カラオケ大会に参加したり、文化祭でステージ発表をさせていただいたり、小学生を対象にした2泊3日の通学合宿も行いました。通学合宿とは子供たちの通学から勉強、食事、就寝全てを旧大芋小学校で行ったイベントです。今回のキャンプは大芋の小学生を対象に開催しましたが、いずれは篠山市の外部、大芋地区の外部からも参加者を募ったり、今は小学生だけですが、それを中学生、高校生まで年齢を引き上げていくことができたらいいなと思っています。

今後の活動スケジュールは次のとおりです。12月の活動が抜けておりますが、今後はクリスマス会やそば打ち、みそ作りなど、普段の生活では体験できないようなことを中心に活動していきたいと思っています。

今現在、おくものがたりには22名のメンバーがいます。小学校でカフェをしたい人もいます。お見合いパーティーを開催したい人もいます。キャンプ、運動会、肝試し、農業、音楽会、スポーツなど、自分が本当にやりたいことや、興味はあるけれどもなかなか手を出しにくいもの、大学生も楽しむために自分がやりたいことなどを、篠山の大芋で物語を紡ぐというのをコンセプトにしているのが、私たちおくものがたりです。

じゃあ、ここで皆さん、一旦背伸びをしましょう。眠気が強いので、皆さんまねをしてくださいね。皆さん背伸びができましたか？

なぜここで、こんなことをわざわざ始めたのかということですが、そして、なぜ一番最初に、僕があんな失笑を誘ったのか。全部あれもシナリオどおりなのです。親近感を持ってもらうためなのです。そして、皆さんにここから先をよく聞いていただきたいからなのです。実際には僕、そんなに能天気な人間じゃないのです。

レジュメのほうに戻ってください。丹波篠山学生生活動団体交流会というのを企画したいと思いません。昨年度もちょっと話には出ましたが、ぜひ参加してみませんか。一緒に企画してみましょう、という目的で告知させていただきます。

現状としては、丹波篠山の中には大学生サークルが10団体ほどありますが、団体間の交流は少なく、おのおのの活動内容も余り把握できていません。そして、活動拠点以外の地域のことを余り把握できていないというのも1つの現状だと思います。

そして、この交流会での目的では丹波篠山地域で活動している学生団体の交流を行い、親睦を深める、交流の土台を整えて、今後の丹波篠山地域のためにできることの幅を広げていくことです。おくものがたり以外の学生団体にも大芋のよさと旧大芋小学校の利便性を知ってもらいたいと思っています。交流会の開催時期としては、このフォーラムの期限が3月で終わりますので、開催時期は2月から3月の月上旬、開催場所は、私たちが活動拠点にしている旧大芋小学校を考えています。対象は丹波篠山地域で学生生活動を行っている皆さんの各団体になります。開催概要としては、各団体の簡単な紹介と自己紹介を今のように簡単にしてもらい、あとは活動している学生自身の自己紹

介してもらおうと思っています。活動団体に関係なく班分けをし、今後の活動においてコラボできるかどうかに関するワークショップを行えたらいいなと思います。懇親会も行いたいなと思っています。

課題としては、例えば僕がやりたいと言っても、皆さんがやりたいとはそれは違いますよね。そうなる参加者の誘致をどうするのか、そして各団体の意識の差異、大芋小学校までの交通経路、そして交流内容、この辺が余り決まっていないので、もしよろしければ皆さんの力をぜひ貸していただけだなと思います。

今現在 LINE グループで、私たちおくものがたりとにしき恋さん、AGLOC さん、代表は神戸山手大学歴史文化ツーリズム研究会さんとさじっこ倶楽部さんが入っていただいています。もしよろしければ、皆さんも私たちと同じグループ LINE に入っていただければと思います。最初の段階でメンバー全員を集めるのは難しいと思うので、最初は代表間や幹部陣、もしくはこの場にいる人たちだけでもと思います。最初のミーティングは丹波篠山地域でなくても、神戸の方でやるとか、皆さんが一番集まりやすい場所でできたらなと思っています。よろしく願いいたします。ありがとうございました。

〔連携先の大芋活性化委員会からのコメント〕

大芋活性化委員会の前田といいます。今日、とても楽しそうに話してくれたので、ああ楽しんでもらっているんだなと思って安心いたしました。お菓子づくりと言いましたけれども、ミルフィーユをいただきました。大変おいしかったです。報告のなかにありました大芋小学校は2年前に廃校になりました。今、その活用というのが地域の最大の課題です。交通の便も残念ながら悪く、篠山口の駅から車で30分くらいかかります。皆さん来ていただく際も本当に苦勞をされていて、時には駅まで迎えに行ったりもします。でも、それにへこたれずに夏の最中に土寄せであるとか、つい最近是小豆の収穫を手伝いに来てくれたり、あとここに紹介してもらっています各農家さんのところでいろいろな体験をしてもらったりと、待っている私たちもとても楽しんでいます。参加してくださる方もすごく楽しそうなので、こういう交流がずっと続いていけばいいなと思っています。大芋小学校の利用のため、ぜひ皆さん集まってください。

〔会場からの質疑と応答〕

(司会者)

学生団体交流会については、特に自分が2016年に参加させていただいたときに、すごい課題だなと感じたので、もしみなさん興味があるなら、ぜひ何かしらの形で協力関係が作れたら、または懇親会のようなものを開いてもらえたらいいなと思っています。

(Wake UP! 柏原)

運動会をやるよということとても楽しみにしていましたが、学年の都合や就職活動に忙しく、参加ができませんでした。この地域全体に意味のある活動だと思えますので、もしまた来年も活動されるようでしたら、2月3月をもう少し早めてもらえたら、参加者も増えるのじゃないかなと思っています。

(おくものがたり)

ありがとうございます。そうですね、運動会はただ僕がやりたかったのですが、去年は人数が集まらなくてできませんでした。今回こそはサークル間の交流ができたかなと思います。去年に比

べると、ことしはLINEグループもできているから、まあまあ進むのではないかなと思っています。

(地域の方)

いい声を聞かせていただいて、こちらもうきうきしました。この丹波地域連携フォーラムは、私たちも学生とのかかわりということで本当に楽しみに聞かせていただいています。彼が言われたように、丹波の大学生が連携するという場には、こういう発表の場もいいですし、先ほど話が出たように、つながりを学生自らが作ろうとされていることは、本当にいいお話だと思います。今回の音頭で、ほかの大学生との連携を密にして、この丹波市、篠山市の活性化のために、若いみなさんのパワーを入れていただければ、私たちも嬉しく思います。ぜひ実現できるようにお願いいたします。

(司会者)

みんなで集まって懇親会や、いろいろな企画を旧大芋小学校でやるということだと思のですが、それでも、そこでなくてもいいのですよ。例えば、これは2016年に僕がやっていたときに思った課題というか、関心事で申しわけないのですが、ここでやっている活動報告会といたら、関係ある人しか来てくれない。それに対して、もっと地域の方々にもっと落とし込んだような報告会が、あるいは参加してもらえるようなきっかけ作りにそれがつながっていくのじゃないのかなと思ったりするのですが。ここじゃなくていわゆる一般の方々を知ってもらうための第一弾として大芋小学校にいっぱい学生が集まってくるみたいなのがあってもおもしろいのじゃないかなと思ったりもするのですが、その点は何か考えられていたりとかありますか。

(おくものがたり)

今現段階では篠山にもともと活動しているサークルの皆さんにしか声をかけていないのですが、ただ、おくものがたり自身も歴史あるとかではないので、新規の2年3年ぐらいしかまだたっていない団体ですので、余り大きなことをやろうとしても頓挫してしまうことが多いと思っています。なので、一番最初はもともとが興味のある人だけを集めたほうが最初の土台づくりになるのじゃないかなと思って、もし今後、それがうまくいっていけば、確かにおっしゃっていただいたように、一般の例えば農学部や狩猟関係であるとか、それに全く関係のない、例えば音楽家の人も来てくれるかもしれないし、学生のみならず専門職の方々、お医者さんであるとか幼稚園の先生であるとか、そういった方々も呼べるようになったら、いろいろな意見をお互い聞くことができ楽しいのじゃないかなと、確かに思います。



活動スケジュール（後期）


1月中旬 新年会、雪合戦

2月上旬 そば打ち

2月中旬 味噌づくり

2月~3月上旬 篠山サークル大運動会

3月中旬 ひな祭りに参加



※繁忙期は農業ボランティアも行う。

活動内容

資源利活用



地域交流

農業振興

【丹波篠山学生生活動団体交流会】

ぜひ参加してみませんか？
一緒に企画してみましょう。

【現状】

- ・丹波篠山の中には大学生サークルが10団体ほどあるが、交流は少なく、各々の活動内容もあまり把握できていない。
- ・活動拠点以外の地域のことをあまり把握できていない。

【丹波篠山学生生活動団体交流会】

【目的】

- ・丹波篠山地域で活動している学生団体の交流を行い親睦を深める。
- ・交流の土台を整えて、今後の丹波篠山地域のためにできることの幅を広げていく。
- ・「おくものがたり」以外の学生団体にも大芋の良さと旧大芋小学校の利便性を知ってもらうため。

【丹波篠山学生生活動団体交流会】

【開催時期】
2019年2月~3月上旬

【開催場所】
旧大芋小学校（兵庫県篠山市中500）

【対象】
丹波篠山地域で学生生活動を行っている団体

【丹波篠山学生生活動団体交流会】

【開催概要】

- ①各団体の簡単な紹介と自己紹介をする。
- ②活動団体関係なく班分けし、今後の活動（特にコラボできるかどうか）に関するワークショップを行う
- ③懇親会（飲食）を行う

【課題】

- ・参加者の誘致
- ・各団体の意識の差異
- ・大芋小学校までの交通経路
- ・交流内容



4. グループ討議『10年後の丹波地域を考えよう』

(1) 主旨説明

〔司会者〕

“10年後の丹波地域を考えよう”ということで、丹波の森づくり 30周年記念シンポジウムでは30年後ということでしたが、30年後はなかなかイメージがし難いので、ここでは10年後の丹波地域あるいは自分たちと丹波地域との関わり方を考えてもらいたいと思います。

皆さんの活動報告を聞いていると、“スキル”を中心にした活動をされている方や“ノレッジ”を中心にした活動をされている方、“柔軟な発想”から始まっている方などがいらっしゃるかと思います。それを“形”に落とし込んでいるのか、“ソフト”に落とし込んでいるのか、“ソフト”と“形”を繋ぐ“パス”として使っているのかなど、いろいろとあると思います。

今回はそのようなことを意見交換しながら、自分たちの活動だけでなく、より拡大した丹波地域の10年後のことを意識してグループ討議していただければと思います。

(2) 各班の発表

〔4班〕

僕らのグループは10年後にどうあるべきかという観点で統一して、最初に個人個人でアイデアを出して、それをディスカッションする、出しあってディスカッションするという感じで進めたのですが、おのおの、僕自身も、ああ、それは面白いとか、それは僕は気付かなかったなという意見とかもいっぱい聞けたのですが、みんなでも共通していたところがあって、丹波篠山、この地域を10年後は今よりもブランド化というか、今、例えば、神戸だったら神戸牛、おしゃれな町並み、そういう、今ぱっと印象が、イメージが浮かぶとは思いますが、そこまでは、まだ、もう一押しなのかなという印象を僕ら若者は受けていて、だから、今よりも確立されるブランドして丹波と言えばこうだ、篠山と言えばこうだという、ああ、〇〇がしたい。そうだ、篠山に行こう。丹波に行こうみたいな、そういうすぐ頭に浮かぶようなブランド化をしていくために、すごく抽象的なのですが、進めていきたいという話でまとまりました。

〔3班〕

僕たちの班は、まず、ワークショップとかっていう交流をふやしているのですが、実際、継続的だったりとか期間が短くならないと、やっぱり交流って意味がないものだなっていう話になって、でも、それって何でできないかという、やっぱりそういう地域の小さいインフラっていうのが必要かなって思って、例えば、地域に一つ車があるとかっていうのだけでも全然違うし、ほかに泊まったりできるそういう拠点っていうのもあるのですが、福住の方も拠点はありますけど、何か地域の方の御厚意でやってもらったりっていうことが多くて、実質的に自立してできることが少なかったりっていうのもあつたりします。ほかに、10年後の丹波の将来として、逆に農業に着目すれば、例えば田舎のほうっていうのは高齢で人口が減っているじゃないですか。逆に農業の自給率っていうのも下がっていて、逆にそういう若い人が田舎に行って、農業でもうけたりとかっていうところのブームがもしかしたら来るのではないかなというちょっとした意見も出ました。

それと、元に戻るのですが、SNSとか広報について団体として問題があるとか考えていて、SNSとか基本的にやっているのですが、何かうまく地域の人だったりとかっていうのに伝えられなかったりとか、活動がやっぱり、しっかりできてないとか、丹波地域とかで篠山とかで活動している団体同士も交流したいけど、さっき言ったみたいに、ちょっと交通の不便があつたりして交流

ができなかったりというところが問題かなという話になっています。

どの地域も意外と思って以上人口が減っているというような感じは受けなくて、観光客も意外とふえているけど、これからはどうだろうみたいな不安がありつつもうまくいくのじゃないかなとか不安な感じで終わっています。

〔2班〕

僕たちの班は、10年後の丹波地域は結構ネガティブな意見が多くて、まずさっきからみんなが言っているように人口が減少していて、もう、まち自体が、村自体がなくなってしまう地域が出てくるのじゃないかなという意見が出たり、逆に、人口がまばらに減っているの、鉄道沿いにぎゅっと集まって、コンパクトシティ化しちゃう。それで、あいた地域は、別荘化してしまうみたいな、そういう意見もありました。

また、これは、僕たち関学生は三田市にキャンパスがあるのですけれども、三田市のように丹波とか篠山もニュータウン化しちゃって、結構、今、城下町の風情ある町並みが多いと思うのですけれども、そういうのもなくなってしまうのじゃないかなという声が、危惧もありました。

最後に電車なのですけれども、今日皆さん柏原駅で降りたと思うのですけれども、柏原駅に着くまでに幾つか駅があって、柏原を越えた先にも幾つか駅があるのですけど、そういった駅で降りる人が少ないってことは、柏原まで一本で行っちゃう電車ができちゃったり、あと、柏原に行くまでの駅だったり、それ以上の駅がポツポツなくなってしまうのじゃないかなというような予想もありました。

〔1班〕

僕たちの班では、10年後、今の現状を踏まえるとこれから人口減少が進むということは明らかなので、そういった中で、丹波市の中に大学ができれば、丹波篠山地域の外から学生が入ってきたり、また、地域に住む高校生がそのまま地域で活躍できる場ができるのじゃないかということで、大学ができればなというふうに考えています。また、Iターンということで、外部の人が越してくるといこともあると思うのですが、お金の面の支援だけじゃなくて、それを受け入れる地域の人の教育であったり、体制づくりみたいなものも進んでいければなと思っています。また、どんどん高齢化に伴って都市機能が低下していくと思うのですけれども、そういった面を外から誘致した企業がカバーするであったりとか、あとは黒豆ブランドですね、10年、20年、何年後になるかわかりませんが、いずれ丹波市、篠山市、もしかしたら一緒になるようなこともあるかもしれないと思っています。そういったときに丹波地域全体として、黒豆をどうブランディングしていくかみたいなのところも考えながら今からブランディングを進めていくほうがいいのじゃないかという意見が出ました。

〔5班〕

10年後の丹波篠山市がどうなっているかというところで、表では結構人口減少であったり、こうネガティブなイメージもあるのですけれども、これだけ学生が関わって地域を盛り上げていっているということ自体が、新しい伝統だったり文化になっているのじゃないかっていうところで、学生と地域のこの連携というものを、今、10年続いているサークルもあるということだったので、20年、30年、地道に続けていくことが価値になっていくのではないかなというふうに思いました。

でも、その一方で、やっぱりさっきもおっしゃったのですけど、もう限界集落になっているようなところもあるっていうところで、そういう場所で活動されているサークルもあるっていうことだったので、学生同士の活動を取りまとめるという意味と、人口減少とか人口がふえていたりとか、

まばらになっている地区をつなぐってという意味でも、一つ、例えばサイクリングルートであったりだとかキャンプのプランみたいなものを整備してあげたら学生の活動もより豊かになるし、地域にとっても認識の違いとかであったりだとか、その問題の違いみたいなのをならしながら地域全体と一緒に成長していけるのかなというふうに思いました。

あともう一つは、長年続いているサークルから、例えば学生内での地域に入っていくときの縦のつながりみたいなものをどうやって整備しているのかっていうことを情報共有しながら、学生の縦方向での活動の継続という方向にも力を入れていけばいいんじゃないかなっていうふうに思いました。以上です

〔6班〕

僕たちのところでは、最初のどうなっていくかについては、ほかの日本の地域と同じように少子高齢化が進むってというのが一番多かった意見で、あとは伝統行事ってというのが受け継ぎ手がいなくなるんじゃないか。空き家がふえるのじゃないかとか、それに伴ってかわからないですけど、交通の便がより不便になっていくのじゃないか、そういうことが出ました。

こうなるべきやっというふうな意見としては、逆にその空き家とかを利用して、そこに価値を付けるっていうことと、僕も三重県から神戸に出てきたんですけど、篠山から大学生とかになって出ていく人はいるかもしれないですけど、逆に戻ってこられるような篠山とか丹波にしていけばいいのかなっていうのと、人数じゃなくて僕たち学生団体のような若い人の活気で勝負していく。その若い人、学生であったり若い人が高齢者に逆に元気を与えられるようなまちにしていけばいいのかなという意見が出ました。

〔司会者〕

10年後の丹波地域の話、今聞いていると、やっぱり、どうしてもマイナス面、マイナス面と言ったら言い方悪いんですけど、人口減少とかが進んでいる中で、こういうふうに住んでいる場所がかわっていくのじゃないのかということなどが出ている一方で、さっきそちらの班も言ってくれたような、今、僕らが入っているのがある意味一つの伝統になり得るのじゃないのかという資源を全く全然違う方向から見ていくような発想もあるのかなっていうのは、ちょっと皆さん、きょう聞いて思ったのですね。またブランディングに関しても、ただ、黒豆とかのブランディングもあり得るし、そうじゃなくて、学生と地域が連携取っているのだよってというようなブランディングも、もしかしたら僕たちが今ここでやっている意義はあるのかなっていうのは聞いていてちょっと思いました。

(3) 総括

〔司会者〕

本当に時間の都合でかなりドタバタドタバタ駆け足でのワークショップになってしまったのですけれども、一つ、考えてほしいのはせつかくのこの機会に、未来というか10年後だったり20年後だったりという自分が入っている地域に対して考えてもらうというのは大切な視点なのかなと。そうじゃない限り、自分たちがやっているプロジェクトとかアクティビティがどこに向かっていくのかというのは皆さん気にしてはると思うのですが、ひとりよがりになり得る可能性とか一過性のものになり得る可能性というのは十二分にあるのじゃないのかなと思います。

また、地域に入る機会っていうのはそうそうないと思うのですね、普通の授業では。そうした中で地域とかかわっていくっていうせつかくの御縁があった中で、もちろん、それを思い出の一つに

するっていうのもありだと思いますし、別にそこに住むとまで言わずとも何かしらのかわり方を続けていくっていうのは少し、常々ではなくてもタイミングタイミングで、ちょっと頭の中で思い描くっていうのは大事な事なんじゃないのかなと思います。得てして、自分が考えてない御縁でこういうふうに司会に立つっていうこともあり得なくはないです。誰が立つかはわからないですけども。

5. 地域と連携して開発を進めているおにぎりの紹介

こんにちは。休憩の時間をちょっとだけいただきまして、今食べていただいている篠山の“黒豆おにぎり”の説明をさせていただきます。

私たちは神戸大学の実践農学という集中講義の授業を受けている学生になります。今、倉本で活動させてもらっています。実践農学という授業は、実践農学入門という科目になっていて、実践農学入門で地域活性化のためのアイデアコンテストで入賞した“ぎゅっと篠山弁当”というものをアレンジして、“ぎゅっ”と篠山おにぎりを作らせてもらいました。倉本の集落で活動しているのですが、そこはお米がおいしいので、お弁当からおにぎりに変えて、今食べてもらっている“黒豆のおにぎり”ができています。この授業の目的は6次産業化を体験するというもので、現在、商品開発をしています。

倉本集落は篠山市の西紀中地区の中央に位置する地域で、過疎・高齢化が進んでおり、村人が全員で42人いらっしゃるのですが、その多くの人が農家を営んでいます。また、ほとんどの村人が高齢者で、一番若くても30代、40代ぐらいの人になります。そんな倉本の魅力はやっぱり食べ物がとてもおいしいところです。それから、自然も多くてすごく景色も美しいところで、地域のお祭りである“いのこ祭り”もとても楽しいです。

商品開発ということで、おにぎりは30代の女性をターゲットに開発しました。倉本集落の活性化が目的なので、倉本集落のお米や黒豆を使っています。価格や大きさなどを考えて、利益も出したいということで原価計算を行い、製品開発をしました。商品開発に取り組むにあたって、倉本で収穫できる農作物のうち、おにぎりの具材に使えるものをリストアップして話をしました。その結果、2回の実習に分けて、合計5種類のおにぎりを試作することになりました。

2回目の8月18日の実習で、そのうちの2種類の黒豆おにぎりとは炊き込みおにぎりの試作を行いました。黒豆おにぎりは、黒豆とお米を同時に炊いて作ったご飯で、このように炊くとほんのりピンク色になるご飯です。炊き込みおにぎりは、ニンジンやこんにゃく、倉本地区で取れたシジミを入れた炊き込みご飯をおにぎりにしたものです。それぞれのおにぎりについて、重量を変えたり、握り方を変えたりして、さまざまなものを作ってみたところ、大きさや形ごとに印象が変わることを発見しました。商品化に当たって、どのような大きさ、形のものが適切であるのか検討していくべきであると実感しました。

続きまして、3回目の実習では3種類のおにぎりの試作を行いました。その3種類とは、栗おにぎり、大根菜おにぎり、みそ焼きおにぎりです。こちらの栗おにぎりには、倉本の農家さんからいただいた丹波篠山で有名な栗を使用しました。包丁で栗の皮を剥いて、お米と一緒に炊くというものです。こちらは秋の味覚が感じられる一品だったのですが、栗の皮を剥く作業が困難であることや栗自体の原価が高いことなどから、今回の商品開発のおにぎりとしては不向きであると判断しました。次は、大根菜おにぎりについてです。大根菜についても倉本の農家さんからいただいたものを使用しました。大根菜を切り刻み、ご飯に混ぜておにぎりにしたのですが、このときの実習で用いた大根菜はまだ時期が早くて未熟だったので、食べた際に歯ごたえや存在感というものがあまり感じられませんでした。しかし、大根菜は地元のスーパーでもあまり売られていない珍しい食材であることや、大根菜によっておにぎりが鮮やかな色合いになることなど、具材としていい面もあるので、候補として残しておきたいという判断になりました。続いて、こちらのみそ焼きおにぎりは篠山で販売されている黒豆みそを用いて作りました。黒豆みそをおにぎりに塗って、フライパンで

両面を焼き、みそ風味の焼きおにぎりにしました。こちらも味自体は濃くておいしかったのですが、調理に非常に手間がかかるため、今回の商品開発にはこちらも不向きであると判断しました。

第4回の実習では試作品についてのアンケート作成を行いました。当初私たちが目指していたおにぎりに近づけているかを調べるため、どこに焦点を絞ってアンケートを答えてもらいたいかを話し合いました。最終的に、「おにぎりから篠山らしさを感じられたか」、「このおにぎりがコンビニで売られているサイズのもので販売されていたら1つ幾らなら購入するのか」、「このおにぎりを学生が開発したという点に興味を持ったか」、そして、「またこのおにぎりを食べてみたいと思ったか」という項目でアンケートを作りました。本日の茶封筒の中に「“ぎゅっ”と篠山おにぎりアンケートのお願い」というタイトルのアンケートを入れさせていただいております。この後、ぜひアンケートの御協力をよろしくお願いいたします。そして後日、大学でミーティングを行いました。これまでに5種類のおにぎりを試作してみましたが、手間やコストを考えると今後何種類も量産していくことは非現実的だという結論に至りました。また、全て倉本の農作物を使ったおにぎりではあるものの、いまひとつ倉本らしさや、その土地でしか食べられないという限定感を出せていないのではという意見も多くありました。ここで、お世話になっている農家さんに黒豆ご飯をベースにして、ほかの具材を混ぜ込んでいくという形にしてはどうかと提案させていただきました。このやり方であれば、黒豆に混ぜ込む具材を変えることで季節感を出しやすく、種類も増やしやすいくことに気がつきました。また、黒豆ベースにすることで地域性も確実に出せるとわかり、この方向性でやっていくことに決定しました。

最終試作会では黒豆ベースのおにぎりに黒枝豆、大根菜、ゆず塩の3種類を混ぜ込んだものを作りました。1つ目は黒枝豆と黒豆のおにぎりなのですが、黒枝豆の薄皮を剥く、剥かないで塩味のしみ方や見た目が全く違うということに気づきました。この試作により、薄皮を剥いた黒枝豆の鮮やかな黄緑色を取り入れた彩りあるおにぎりに仕上がりました。そして2つ目は、大根菜と黒豆おにぎりです。この日は、黒豆味噌味とシンプルな塩味の2種類を試作したのですが、どちらもおいしくてよかったです。黒豆みそにかかるコストと農家さんの意見を考慮して、塩味のほうがシンプルでおいしいという結論に至りました。3つ目は、ゆず塩なのですが、斬新な組合せですが、きちんと倉本らしさが出せるおにぎりだと思います。初回の実習で倉本を回ったときに、農家さんに教えていただいた神社の木になっていたものです。ふだん目にするのではない味だと思うのですが、風味豊かで季節感を感じられるおにぎりに仕上がりました。先日11月3日には黒豆の館で行われた“炎のまつり”にも参加させていただき、試食という形で先ほどの3種類を計130個ほど配付させていただきました。おにぎりは大盛況で、1時間半ぐらいで配付終了となりました。食べていただいた方にはアンケートとコメントを記入いただき、祭りの後全員でアンケートの集計と分析を行いました。その炎のまつりで集まったアンケートの結果を報告します。今回載せているのは、おにぎりの種類に関係ない全体の結果ですが、これ以外にも男女別、おにぎりの種類別と母集団を変えて集計を行って、それぞれの結果の違いを比較したりしました。まず、アンケートの1つ目、「おにぎりから篠山らしさは感じられますか」については、8割以上の方に「そう思う」、もしくは「どちらかといえばそう思う」という回答をいただきました。これは特に黒枝豆と黒豆のおにぎりで評価が高かったです。しかし、それ以外のゆず塩と黒豆、大根菜と黒豆のおにぎりでも評価が高く、篠山らしさを出すことができたのは、やはり全国的にも有名な丹波篠山の黒豆を具材のベースにすることで篠山らしさを出しつつ、バラエティに富んだ倉本の魅力をアピールできたからではないかと思いました。そしてアンケートの2つ目、「このおにぎりがコン

コンビニで売られているサイズで販売されているとしたら、1つ幾らなら購入しますか」という結果です。種類別の平均価格は黒枝豆と黒豆のおにぎりが126円、ゆず塩と黒豆のおにぎりが117円、大根菜と黒豆のおにぎりが108円となりました。これはコンビニで売られているおにぎりとは大体同じ価格帯なので、やはり黒豆という高級食材を使っている以上もっと付加価値を高める工夫が必要だなと感じました。“炎のまつり”のときは、今回と同じように試食ということでパッケージなどのデザインを全く考えていなかったのですが、もし実際販売するとなったら、もっと倉本の農家さんが丹精を込めて育てた食材を使っているということをアピールできるような、そして、思わず手に取ってしまうようなかわいいパッケージが考えられたらさらにいいのではないかなと思いました。また、アンケートのコメント欄におにぎりに高いお金を払うっていう感覚がないので、小さくてもいいから手ごろな価格で販売したほうがよいという意見もいただき、おにぎりの大きさや価格設定の難しさを感じることができました。そして3つ目、「このおにぎりが学生（神戸大学生）が開発したという点に興味を持ちましたか」というものです。まず、この取り組みが授業の一環で行っているということ、ただ学生がやっているからという理由で興味を持ってもらえるなら、もし実際に販売するとなったときに宣伝で効果的に使うことができるのではないかと考え、アンケートに組み込みました。かなり多くの方に、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」と回答していただき、学生がやるということに意義を感じました。最後の質問が、「またこのおにぎりを食べてみたいと思いましたか」というアンケートです。継続的に販売していくためには、やはりまた食べたいと思ってもらうことが大事だと思うので、今回はかなり自信を持って出したものの、やはり何人かのお客さんには「どちらでもない」とか「どちらかといえばそう思わない」という回答をいただいたので、もっといろんな人に愛されるようなおにぎりを考えられたらいいなと思います。

篠山で行う授業としては今日が最後になるのですが、この6次産業化プロジェクトを通してたくさんの方のことを私たちは学びました。まず、篠山で暮らしている方々と直接話すことで、少子高齢化の影響を強く受けている農村の現状を知ることができました。その中でも地域をもっと元気にしようというさまざまな取り組みを行っている方々や、その一環として私たちの6次産業化のプロジェクトに温かい目で見守って協力して下さる方々がたくさんいました。篠山らしいおにぎりといっても、なかなか実際に形にするのは難しく、プロジェクトの方向がなかなか決まらないというときもあったのですが、地元の方々から味や見た目についてたくさん意見をいただいたり、実際に黒豆ご飯の炊き方について教えていただいたりしたため、地元ならではの素材のよさを生かせるおにぎりになったと思っています。

今回の実習では、地域の方々には本当に私たちのことを気にかけてくださって、私たちも篠山に来ることが毎回とても楽しみでした。このプロジェクトが今後も継続していけるのであれば、地域の活性化を実際に確かめたいなと思っています。

もう結構食べてもらったかなと思うのですが、今回配らせてもらったおにぎりは黒枝豆と黒豆のおにぎり、そしてゆず塩と黒豆のおにぎりの2種類になります。黄緑とピンクのシールがついているものが黒枝豆と黒豆のおにぎりで、黄色いシールがついているものはゆず塩と黒豆のおにぎりになっています。よければ食べていただき、茶封筒の中にアンケートが入っていると思うので答えていただければ、これからのプロジェクトに生かしていけるかなと思っていますのでご協力よろしくをお願いします。


それでは、これで発表を終わらせてもらいます。御静聴ありがとうございました。

実践農学 6次産業化プロジェクト in 倉本



東映花(農・応用植物学コース)
小林菜月(農・環境生物学コース)
佐良彩(国際人間科学部 環境共生)
鈴木豆穂(農・応用動物学コース)
杉本緑美(経済)
ファンリテーター 木原幸穂子

実践農学とは？



農作業を体験する「実践農学入門」より引き続き、西紀中・倉本集落でお世話になり、インターンシップ型で地域課題の解決に取り組む授業

6次産業化プロジェクトとは？

地元の特産品を使って、新たな商品を作り、倉本地区の良さを広める！

倉本地区ってどんなところ？

第1回2018/6/23



篠山市西紀中地区の中間部に位置する地域
高齢化が進む
現在は多くの人が農家を営む



倉本の魅力

第1回2018/6/23

お米、黒豆、野菜、食べるものがとにかく美味しい！

蛍の飛ぶ小川、芝桜など景観が美しい！

地域のお祭りが今でも一部残っている！


商品開発の過程

第1回2018/6/23

- 商品を開発する目的
- バックグラウンド
- 顧客ターゲット層

↓

- 何を売るか
- どこで、どのように売るか
- 利益は出るか



黒豆おにぎり&炊き込みおにぎり試作会

第2回2018/6/18

大きさ、形によって印象が異なることを発見！



左：倉本の黒豆とお米を使ったおにぎり
右：人参、こんにゃく、すぐろの味噌で味付けしたシジミを炊き込んだおにぎり

栗おにぎりの試作

第3回2018/9/26

- 丹波篠山全体で有名な栗を使用
- 洗皮を剥くのが困難
- 原価が高い


→ 今回のおにぎりには不向き




大根菜おにぎり

第3回2018/9/26

- めずらしい
- 捨てられることもある食材だが美味しく食べられることをアピールできる
- 緑色が映える
- 時期が早かったため葉っぱの存在感が薄かった



第3回2018/9/26

味噌焼きおにぎり

- ・黒豆味噌を塗り、その後焼く
- ・味は濃くて美味しいが調理に非常に手間がかかる


→ 今回のおにぎりには不向き



第4回2018/10/27

アンケート作り

- ・作り手(=自分たち)の意図はお客様に伝わっているか?
- ・どこを改善すればよいか?
- ・お客様が気軽に答えやすい内容、量か?

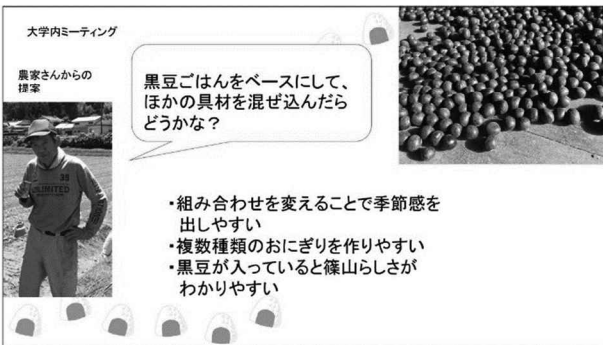


大学内ミーティング

農家さんからの提案

黒豆ごはんをベースにして、ほかの具材を混ぜ込んだらどうか?

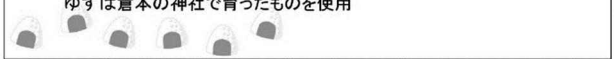
- ・組み合わせを変えることで季節感を出しやすい
- ・複数種類のおにぎりを作りやすい
- ・黒豆が入っていると篠山らしさがわかりやすい



第4回2018/10/27

最終試作会

- ・黒枝豆×黒豆おにぎり
黒枝豆の薄皮を剥いたほうが黒豆との見た目の相性が良い
- ・大根菜×黒色おにぎり
塩味で味付けしたもののほうがシンプルで良い
- ・ゆず塩×黒豆おにぎり
斬新な組み合わせだが、ゆず塩濃さを加減すれば合う
ゆずは倉本の神社で育ったものを使用



第5回2018/11/3

炎のまつり @黒豆の館

黒枝豆×黒豆おにぎり
大根菜×黒豆おにぎり
ゆず塩×黒豆おにぎり

試食&アンケート

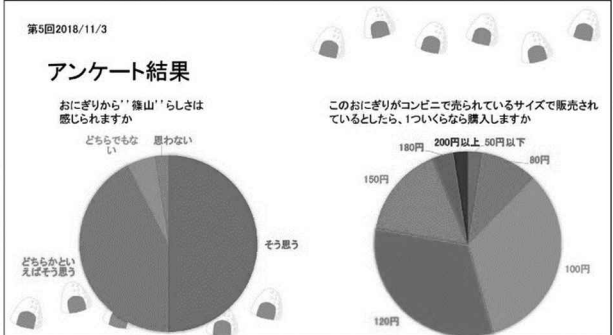


第5回2018/11/3

アンケート結果

おにぎりから「篠山」らしさを感じられますか

このおにぎりがコンビニで売られているサイズで販売されているとしたら、1ついくらなら購入しますか



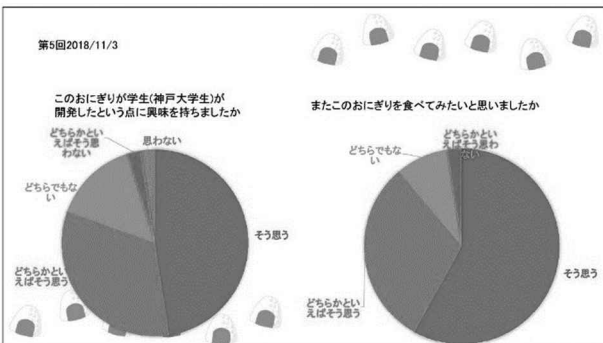
回答	割合
どちらでもない	約15%
思わない	約15%
そう思う	約55%
どちらかといえはそう思う	約15%

価格帯	割合
180円 - 200円以上	約10%
50円以下	約10%
80円	約25%
100円	約35%
120円	約20%

第5回2018/11/3

このおにぎりが学生(神戸大学生)が開発したという点に興味を持ちましたか

またこのおにぎりを食べてみたいと思いましたか




回答	割合
どちらかといえはそう思う	約15%
思わない	約15%
そう思う	約55%
どちらでもない	約15%

回答	割合
どちらかといえはそう思う	約15%
思わない	約15%
そう思う	約55%
どちらでもない	約15%

この実習を通して学んだこと

- ・6次産業化にはそれぞれの地域のバックグラウンドがあること
- ・地域をより良くするための方法として、6次産業化があること
- ・地域の良いものを多くの人に伝わる形にする難しさ(形、大きさ、価格、パッケージ、売り方...)
- ・地域の人との交流の楽しさ
- ・出来上がった試作品だけでなく、開発途中の過程が活性化につながっていること



本日の試作品

・黒枝豆×黒豆おにぎり

倉本地域で丹精込めて作られた豆づくし！

・ゆず塩×黒豆おにぎり

地域で自然に育ったゆずとの意外な組み合わせが楽しい

ぜひ、アンケートにご協力ください！！

6. 講評

神戸山手大学 准教授 高根沢 均

神戸山手大学の高根沢です。今日はいろいろな大学のいろいろな発表を聞かせていただいて、大変勉強になりました。私がこちらの篠山丹波地域のほうにかかわり合うようになって4年目になるのですが、毎年いろいろなプログラムがあって、毎年いろいろな学生がいて、非常に活発な話が出て、素晴らしいなあと思っています。

僕が一番覚えているのは、最初に2015年の報告会に参加した際に、各団体の連携を何とか実現してほしいと思ったことですね。おくものが

たりの磯脇君が言っていたように、協議会でもいいけど、みんなで楽しむつもりでやってほしいと思うんです。それぞれ参加している学生がいろいろな専門分野の勉強をしていて、いろいろな思いがあって、いろいろな経験をしているということを経験を共有するというのも大事です。

また、地域の方の話にもあったと思うのですが、地域の方は外から来る人に対してすぐぱっとオープンになれるということではないわけです。ただ、やっぱり皆さんは、学生という何かを学びに来て、地域のために来ている若者ということで、地域の方も快く受け入れやすいという、そういう特殊な立場だと思います。だから、学生のみなさんが、例えば外国人でもいいですし、もっと都会の人でもいいですし、そういう人たちをつないでいく仲介者としての立場に立っているということ、よくよく意識してほしいのです。いろいろな活動をしながら、そして外の人と地元の人をつなぐ、それも大切な役割です。

あともう一つ思っているのは、福住でうちの大学の学生が活動していますが、去年ぐらいから若い20代の方が話し合いとかにも来てくれるようになったんです。そうしたら地域の年配の方も、その若者とは初対面かな？みたいなこともあって、若い人がどこどこの子供ですというような自己紹介をして、あああそこの子か、というような感じにつながっていくんですね。つまり、地域の若い人に年配の人たちが頑張ってきたことが受け継がれていくような、そういうような機会になるのかなとちょっと思っているんです。皆さん方は、さっき言ったように外の人と地域の人をつなぐということもありますが、地域の中で今中心になっている年配の方と若い人をつないでいく、ということも大事な役割だと思います。

どこの地域も今頑張っている人から次の世代にどう受け渡していくかというのは非常に悩んでいるところだと思います。地域の若い人にしてみれば、大学生が来ているからちょっと会ってみたいとか、女子大生と話してみたいとかもあるかもしれないですね。でも、それでもいいというか、そうやってつながって行って、地域の中に新しい循環を生み出していくことができるわけです。みなさんは、そういうことができる素晴らしい時間を今過ごしているのだということに十分かみしめて、もっともっと積極的に頑張ってもらいたいと思います。今日はどうもお疲れさまでした。



(公財) 兵庫丹波の森協会 丹波の森研究所 専門研究員 横山 宜致

(平成 30 年度学生等による地域貢献活動推進事業選考委員会 委員長)

いつもは5月だけ審査して、あまりこういうところでは意見を言っていないのですが、今日ちょっと私の講評というよりも、感じた感想を述べさせていただきたいと思います。出町さんが最初に「みんなで一緒になって」ということをおっしゃっていました。柏原の方の住民の方は「いろいろな階層が参加していく場」にしていこうという形でおっしゃっていましたが、私は最初学生が来たときに4年間で終わるのだろうと予想していました。そしたら、継続すると



というのがわかったのがこの10年間だったというふうに思います。「できること」と「やりたいこと」と、それから地域から「やって欲しいこと」の中で悩みながら結構楽しんでやっていますので、特に今日西紀の方がおっしゃられていましたように、学生が楽しんでもらう秘訣として、「地域はその場を与えるのだ」という意見を聴きました。私はむしろ地域の方からこういうことをやってくれというお願いしないから、困ったことは何ですかみたいなヒアリングから地域が困ったことを手助けするような形でやる場合が多く、逆に自分たちがやりたいことができなくなって困っているのじゃないか、そういう思いをしていたのですが、どうもこの10年間をずっと見てきていますと、ニューウェーブとして学生が楽しみながらやれる分野というのは、地域の課題解決を直接ではなく間接的な形で支援し、地域が得意としていないところをしっかりとフォローしてくれる形が何となく見えてきたように思います。結果として学生は継続してやってくれること、楽しみながらエンjoyするような形である程度自由に活動してもらう方が成果は上がるというようなことが、10年間の取り組みでわかってきたのではないかと思います。ですから、正確に分析したわけではないのですが、今度は地域の方がもう少しこの学生の力をうまく地域活動の取り組みの中で、単にお祭りの手伝いではなくて、ちゃんと成果を残しながら学生が楽しめて地域が元気になるような、(学生が来ることだけでも気になっているのですが)、本当の意味での力を合わせる協働として計画的な取り組みにできるような気がしています。これからもぜひ継続していただいて、そして、10年後、また丹波地域で同窓会をぜひやっていただきたいと思いますので、よろしくお願ひします。

それから、ちょっと私、市役所の景観室というところにもいるのですが、篠山の町並みがなくなるとかといった意見がある一方で「意外と景観はいいですね」と来られている外国の留学生の方がおっしゃっていたので少し安心したのですが、発表の中には丹波地域の良さ、魅力というのは大半が食べ物や農作物、人柄等の場合が多い。「景観や空間もあるでしょ」ということを個人的にはずっと言いたかったのですが、なかなか景観や町並みの分野では、評価や課題を見つけてもらっていないような気がしますので、できれば空間の方にも興味を持っていただけたらというふうに思います。

それから、土地利用とか都市計画的には篠山市はかなり厳しい施策をやっていますので、特に山下先生はまちづくり審議会に入っていていただきまして、空き家の方では清水先生に入ってきていただきまして、まちづくり審議会の会長は角野先生に務めていただいています。先生方の指導によりまして景観や土地利用については、全国的にも先導的な取り組みになっており、本日いくつ

か意見が出ていました、景観等が将来どうなるのかということにつきましては、篠山は保全型で進み、将来的にも継承されると考えていただければと思います。少し長くなりましたが、ありがとうございました。

関西学院大学総合政策学部 教授 角野 幸博

(丹波地域大学連携フォーラム実行委員会 顧問)

どうも皆さん、お疲れさまでした。本当はずっとこちらで皆さんの話を伺いたかったのですけれども、ちょっと庭の向こうでやぼ用がありまして、ずっと捕まっていました。それで、せっかくなので向こう側でどんな話があったのかとか、ちょっとだけ御紹介しようかなと思います。今日は県民局長とか、それから丹波市の市長とか、それから知事も来られていて、大変丹波のことを期待していて、そういう話があって、それから小学生、中学生、高校生、大学生、それからインターンの人、それからずっと地域で活躍されている方、それから無鹿の大將とか来られて、それぞれの立場からいろいろなお話を伺いました。そういう中のいろいろな丹波のもりびとのいろいろなライフスタイルを、今日は紹介し合っていたのですけれども、そういういろいろな中のかかなり重要な期待されている部分を皆さんが担っているのだという感じ。つまり別に皆さんが全員がここに住んでいるわけでもないですし、これから何十年もずっとここにかかわり続けるかどうかわかりませんが、そういう皆さんたち流の丹波とのつながり、丹波で何ができるか、また丹波にこれからたびたび来られるようになった卒業後とかあるかもしれませんけれども、そういういろいろな丹波とのかかわりをどんどん皆さんから提案していただいて、提案するだけじゃなくて、みずからかかわっていただけると、また丹波の暮らしとか魅力が幅ができるのじゃないかなというふうに思っています。



私は 10 年ほど前から授業の一環として丹波にかかわることになりましたけれども、その卒業生たちがまた別の形でうまく丹波に戻ってきてくれたり、時々訪れてくれたりしています。そういういろいろな形がこの後出てくるのだということをちょっと覚えていてもらって、卒業後もまたおつき合いしてもらえるといいのじゃないかなと思います。

今日は本当にお疲れさまでした。御苦労さまでした。

神戸大学大学院農学研究科 学術研究員 木原 奈穂子

(丹波地域大学連携フォーラム実行委員会 副会長)

神戸大学の木原でございます。まだ、(試食として提供させていただいた)おにぎりが残っているので、おなかの中にしまっただけ帰っていただきたいのですけれども、この試食に関しても、学生を連れてくるというのが私の仕事かなと思って、新たに(加工に携わる)学生サークルの卵みたいな形で学生を呼んできています。なので、アンケートも書いて返していただいて、ぜひ新しい学生を受け入れる空気感みたいなものを醸していただきたいな、という期待もあります。というのも、私が

配属になって、ここ1年でいろいろ学生の活動と
かも見させていただいているのですけれども、学
生同士、神戸大学は特に3つ4つ、これまでも含
めると5つ6つぐらいの学生サークルがござい
まして、社会人になっても継続しているサークル
とかもあります。神戸大学の中でいったらそれぞ
れの学生サークルの代表が交流をしているとい
うような形なのですけれども、じゃあ、実際に現
地のほうで学生サークルの活動がどれぐらい連
携してシナジー効果を生み出しているのかは、私
がまだ見られていないところもあるかなというふうには思います。これからの課題としては、学生
サークルがどんどんふえてきているので、その中のシナジー効果をぜひ出してほしいなとい
うのが私のこの1年間で感じているところです。地域で受け入れていただいて、その地域に何か恩
返しをしましょうというところはもちろんあると思いますし、学生もその部分を意識しているか
な、とは思うのですけれども、ぜひその地域を活性化しようというふうにと考えたら、周りの地域、
またちょっと離れたところの地域の力を借りて、自分たちではできないところをうまくカバーして
いく、普通のビジネスでいけば取引をしていくというような発想で、どんどんまた活性化していく
のじゃないかなというふうにも思います。得意不得意それぞれ気づいているところがあるのであれば、
ぜひシナジー効果を意識して行って、せっかくいろいろ混じっているので、継続的に話し合い等
もしてもらえたらな、というふうに思います。



関西学院大学総合政策学部 准教授 清水 陽子

(丹波地域大学連携フォーラム実行委員会 副会長)

(平成30年度丹波地域大学連携フォーラム コーディネーター)

私は今日は裏方のほうでと思っておりまし
たので、簡単に挨拶をさせていただきたいと思
います。本当に今日はお疲れさまでした。また、こ
の11月という時期、例年より一月早くなりました
ので、まだまだ、成果これからだという団体も
たくさんあるかと思っています。どうか、3月まで今
の思い、今日また思いを新たにされた団体も多
いのではないかと思いますので、しっかりと取
り組んでいただきたいと思います。聞かせてい
ただいた中で、情報共有ですとか、さまざまな後
継者の問題とか、周知の仕方はどうしたらいいのだ、同じような悩みを抱えている団体がたくさん
あるということも、皆さんもわかったのじゃないかなと思います。いろいろな先生もおっしゃって
いますけれども、やっぱり皆さんが一緒になって動いていく、1団体、自分たちだけじゃないのだ
というところも今日見えたところかと思っていますので、こういった場の活用というのはどんどんして
もらえたらいいかなと思います。



1点だけお願いしたいのは、先ほど地域の方から、地域のことを知ってもらえたらとか、来ても

らえるだけ助かるというお言葉がありましたけれども、私たちとしてはそこに余り甘えてもらっては困るという思いもあります。大学生も立派な、皆さん大人ですから、やっぱり自分ができること、期待されていること、その活動することによってどういった影響があるのか、もしくは自分にどういった責任が発生するのかということころは、しっかりと踏まえていただきたいと思います。これからも皆さんの活躍が続いていくといいなと思っていますので、期待をしております。今日はどうもお疲れさまでした。

関西大学 佐治スタジオ 出町 慎

(丹波地域大学連携フォーラム実行委員会 会長)

最後に一言。今日は皆さん、どうもお疲れさまでした。企画とか進行のほうお世話になりました。清水先生と青木さん、どうもありがとうございました。今日、お忙しい中集まっていた地域の方々と先生方、どうもありがとうございました。僕のほうから最後一言だけですけども、一言じゃないかな。

まずは、皆さんが取り組んでいる活動をお聞きして、非常に10年の積み重ね、みんなそれぞれ10年やっているわけではないのですけれど

も、その積み重ねが非常にあらわれているなということを感じて、こういう取り組みを続けてきて、ああ本当によかったなというふうなことを思うのと、横山さんがおっしゃった感想とほぼ同感なところがあって、皆さん非常に答えのない課題というところに取り組んでいるということがあって、非常に悩むこととか、大変なこととかあったりすると思うのですけれども、答えがないからこそ楽しいことがあるのだと思っています。なので、簡単に答えが出ないことだと思うので、それに取り組むことはすごいエネルギーが要るし、悶々としたり、しんどいこともあると思うのですけれど、ぜひそれを1人で取り組むわけではないので、みんなと仲間と、もしくは地域と取り組むわけなので、ぜひ悶々としたものに堂々と正面からぶつかって、もがき続けていろいろな活動をこれからも展開していってもらえたらなと思っています。

その中で、大学連携フォーラムとしても皆さんの活動を支援するための役割として、もっともっと我々自身も考えていかなければいけないこと、かえていかなきゃいけないことがあるのじゃないかなということは、今日感じたところでもあります。1つ目は丹波地域の大学連携フォーラムと書いているのですけれども、一旦大学抜いて、丹波地域連携フォーラムということで、大学の皆さんが発表するというのもあるのだけれども、地域側、僕も今丹波に住んでいますけれども、地域の住民としても思うのは、学生の皆さんの活動と、地域との距離感、どういうふうにかかわることがいいのか、もしくは学生の皆さんのエネルギーとかアイデアとかをどういうふうに生かせるかというのは、地域側もそれを生かすための仕組みとかか体制、姿勢を考えていかなきゃいけないのかなと思います。こういう形で大学の皆さんと連携するところはあるのだけれども、それを支える地域側の一緒に話をする場とか、ノウハウを共有する場というのは今のところないような気がしますので、そういったものもこの中で企画して行って、地域としてはどのように学生のみんなとつき合っていけばいいのか、どういうふうに応援していけばいいのか、そういったことを議論する場という



のもつくっていく必要がるのかなあと思いながら、この立ち位置逆ですよ、学生のみんながこっち座って、地域の僕らがこっちに座るみたいなことがあってもいいかなと思ったりしました。

あと、今このフォーラムの実行委員会というのは大学の先生方とか県民局含めて行政の方とかが中心になっていますけれども、これは以前からも議論の中であると思うのですけれども、地元企業であったりとか、皆さんの活動を応援したいと思っている方々、もっとたくさんいると思うのですけれども、そういう方々とどういふふうに連携をとっていくのかというのは、これから僕たちの課題かなと思っています。それはお金の支援だけではなくて、ノウハウであったりとか、今日でいったら広報の面ですね、情報発信の面でなかなか苦労しているみたいな話もありましたので、そういったところとかを企業が持っているノウハウを生かしていくとか、そういった形の協賛のあり方だったり協力のあり方もあるのかなあとしますので、より今後、皆さんがもっともっと自分たちが楽しいと思える活動を展開していけるように、我々も支援する体制を整えていきたいなと思っていますので、この後、懇親会もありますので、その中でもっとこんな支援はないのかとか、こんなことできないのかみたいなことを我々にぶつけてもらえれば、我々それをもって、また真摯に検討していきたいなと思っていますので、そういうことで、今日は1日長丁場でしたけれども、どうもお疲れさまでした。これからも、どうぞよろしくをお願いします。